

ブルーレイディスク™ /
DVD ホームシアター
システム

取扱説明書

接続と設定	
再生する	
音声を調節する	
ラジオを楽しむ	
その他の機能	
詳細な設定と調整	
その他	

お買い上げいただきありがとうございます。



電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。**
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。



安全のための注意事項を守る

2～7ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。
8ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



- ① 電源を切る
- ② 電源プラグをコンセントから抜く
- ③ お買い上げ店またはソニーサービス窓口にて修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。



この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災



感電



指のケガに
注意

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



接触禁止



ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示



プラグをコン
セントから抜く



火災



感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡や大けが**の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

→ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口へ交換をご依頼ください。



禁止

本機の上に重たいものや不安定なものを置かない

感電や故障の原因となります。



禁止

湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。



禁止

内部に水や異物を入れないようにする

水が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶など水の入ったものを置いたり、本機を水滴のかかる場所に置かないでください。

→ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

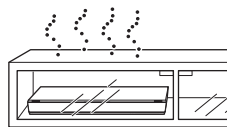


禁止

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- 熱のこもりやすい所



本機は室内専用です

乗物の中や船舶の中などで使用しないでください。



指示

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

→ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



分解禁止

雷が鳴り出したら、本体や電源プラグには触れない

感電の原因となります。



接触禁止

本機は国内専用です

交流 100V の電源でお使いください。

海外などで、異なる電源電圧で使うと、火災・感電の原因となります。また、コンセントの定格を超えて使用しないでください。



指示



火災



感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電により死亡や大けが**の原因となります。

可燃ガスのエアゾールやスプレーを使用しない

清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。



禁止

電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する。

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。



指示

心臓ペースメーカーの装着部位から 22 cm 以上離して使用する

電波によりペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。



禁止

病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤作動による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない

電波が影響を及ぼし、誤作動による事故の原因となるおそれがあります。



禁止

電源を「切」にしているときのご注意

本機はリモートスタートをしたり、テレビとの高速連動（HDMI 機器制御機能）をするために、電源が「切」の状態でも、一時的に本機の内部のシステムが起動することがあります。これにより、本機の冷却ファンが操作することがありますが、故障ではありません。

• 次のようなときは、電源が「切」の状態でも動作音がすることがあります。

- [HDMI 設定] の [HDMI 機器制御] が [入] に設定されているとき
- [リモート起動] が [入] に設定されている場合

設置について

障害防止のため、この機器は、設置説明に従って床又は壁にしっかりと取り付ける必要があります。



指示



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり**周辺の家財に損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



ぬれ手禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

本機に新聞紙、テーパークロス、カーテン、布などをかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上、または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



禁止

本機の上に、例えば火のついたローソクのような、火災源を置かないでください。火災の原因となります。

大音量で長時間続けて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

→ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



禁止

安定した場所に置く

水平で丈夫な場所に置いてください。ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も十分に確認してください。



禁止

本機を本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に設置しないでください。

機種名の記載位置について

機銘板は、本体の底面に表示してあります。

USB の定格の記載位置について

定格は、本体の底面に表示してあります。

幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようご注意ください。



指のケガに
注意

コード類は正しく配置する

AV ケーブルや電源コードは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。十分に注意して接続、配置してください。



禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



プラグをコンセントから抜く

移動させるとき、すべての AV ケーブルや電源コードを抜く

AV ケーブルや電源コードは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。



指示



下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の
家財に損害を与えたりすることがあります。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだまま、
お手入れをすると、感電の原
因となることがあります。



プラグをコン
セントから抜く

ひび割れ、変形したディスクや補修し たディスクを再生しない

本体内部でディスクが破損し、けが
の原因となることがあります。



禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱によるけがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

警告

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間が経ってから症状が現れることがあります。



接触禁止

必ず次の処理をする

- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。



指示

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

- 万一、飲み込んだときはただちに医師に相談してください。



禁止

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。



禁止

注意

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。

- マンガン電池をお使いください。電池の品番を確かめ、お使いください。



禁止

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。

- 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



指示

使い切ったときや、長期間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがやけどの原因となることがあります。



指示

リモコンの電池フタを開けて使用しない

リモコンの電池フタを開けたまま使用すると、漏液、発熱、発火、破裂などの原因となることがあります。

- マンガン電池を使用し、フタを閉めて使用してください。



指示

電池を火のそばや直射日光のあたるところなど、高温の場所で使用、保管、放置しないで下さい。破裂したり、液が漏れたりして、けがやけどの原因となることがあります。

使用上の ご注意

本機は、コンセントの近くでお使いください。本機をご使用中、異常な音やにおい、煙がでたときはすぐに電源を切り、コンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断してください。

本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

本機の起動と終了について

本機はシステム全体の最適化を図るため、電源入切時に電源ボタンを押してから、実際に起動するまでと実際に電源が切れるまでしばらく時間がかかります。

電源が切れる前にコンセントから電源プラグを抜くと、故障の原因になります。

残像現象（画像の焼きつき）のご注意

本機のメニュー画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象を起こす場合があります。

設置場所について

次のような場所には置かないでください。

- 振動の多い所。
- 直射日光が当る所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所、極端に暑い所。

また、本機の上に花瓶など水の入った容器を置いたり、水のかかる場所で使用しないでください。本機に水がかかると故障の原因となります。

設置場所を変えるときは

BD や DVD、CD を入れたまま本機を動かさないでください。ディスクを傷めることがあります。

配線／接続作業を行うときは本機の電源を切り、本機の電源が切れていることを確認してから電源プラグをコンセントから必ず抜いてください。

結露（露つき）について

結露とは空気中の水分が冷えた金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋で、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。結露が起きた場合、結露がなくなるまで、そのまま放置してください。

- 電源プラグをコンセントに差し込んでいない場合
電源プラグをコンセントに差し込まないで、そのまま放置してください。
- 電源を入れていない場合
電源を入れないで、そのまま放置してください。
- 電源を入れている場合
電源を入れたまま放置してください。

結露があるときにご使用になると、故障の原因になります。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

再生を開始するときは

音量を必ず下げておきましょう。初めから音量を上げていると思わぬ大きな音が出てスピーカーを破損させたりするおそれがあります。

映画や音楽を楽しむときは

映画や音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかけられないような音量でお聞かせください。特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。窓を閉めたりするなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

クリーニングディスクについて

レンズ用のクリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

HDMI 出力端子につなぐときのご注意

次のような場合、HDMI 出力端子やコネクタを破損させるおそれがありますのでご注意ください。

- ケーブルを差し込むときは、本体後面の HDMI 出力端子とコネクタの形や向きに注意してください。



コネクタが逆さになっている 曲がっている

- 本機を移動させるときは、必ず HDMI ケーブルを抜いてください。



- HDMI ケーブルを抜き差しするときは、コネクタをまっすぐ持ってください。コネクタをねじ曲げたり、HDMI 出力端子に強く押しこんだりしないでください。

3D 映像の視聴について

3D 映像の視聴中に目の疲労、疲れ、気分が悪くなるなどの不快な症状が出る場合があります。3D 映像を視聴するときには、定期的に休憩をとることをおすすめします。必要な休憩の長さや頻度は個人によって異なりますので、ご自身でご判断ください。不快な症状が出たときは、回復するまで 3D 映像の視聴をやめ、必要に応じて医師にご相談ください。本機に接続する機器や本機で再生するブルーレイディスクの取扱説明書やご注意文などもあわせてご覧ください。最新情報については、ホームページ (<http://www.sony.jp/support/>) をご覧ください。なお、お子さま（特に 6 歳未満の子）の視覚は発達段階にあります。お子さまが 3D 映像を視聴する前に、小児科や眼科などの医師にご相談ください。大人のかたは、お子さまが上記注意点を守るよう監督してください。

著作権保護について

ブルーレイディスク™ や DVD では、著作権保護技術が採用されています。AAC5 (Advanced Access Content System) や CSS (Content Scramble System) と呼ばれる著作権保護技術により、再生やアナログ出力に制限かけられます。AAC5 の団体が本製品の購入日以降に制限に関する規定を制定または改訂することがあるため、本製品の操作および制限の内容は購入

日より異なる場合があります。

Cinaviaの通告

この製品は Cinavia 技術を利用して、商用制作された映画や動画およびそのサウンドトラックのうちいくつかの無許可コピーの利用を制限しています。無許可コピーの無断利用が検知されると、メッセージが表示され再生あるいはコピーが中断されます。

Cinavia 技術に関する詳細情報は、<http://www.cinavia.com> の Cinavia オンラインお客様情報センターで提供されています。Cinavia についての追加情報を郵送でお求めの場合、Cinavia Consumer Information Center, P.O. Box 86851, San Diego, CA, 92138, USA までがきを郵送してください。

著作権／商標について

- 本機は、無許諾の BD/DVD（海賊版等）の再生を制限する機能を搭載しており、このようなディスクを再生することはできません。
- “AVCHD 3D/Progressive” および “AVCHD 3D/Progressive” ロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
- Java は、Oracle およびその関連会社の商標です。
- “xross media bar” および “XMB” は、ソニー株式会社および株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。
- 本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI®) 技術を搭載しています。HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface および HDMI ロゴは、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその

他の国における登録商標です。

- 本機はドルビー® デジタル、ドルビープロロジックアダプティブマトリックスサラウンドデコーダーおよび DTS** デジタルサラウンドシステムを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、AAC ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** 米国特許番号 5,956,674、5,974,380、6,226,616、6,487,535、7,212,872、7,333,929、7,392,195、7,272,567、その他米国および米国外で発効または申請中の特許に基づき製造されています。DTS-HD、シンボル、およびDTS-HDとシンボルの組み合わせは DTS, Inc. の登録商標です。製品にはソフトウェアが含まれています。© DTS, Inc. 不許複製。

- “Super Audio CD” は、商標です。
- “DVD ロゴ” は DVD Format/Logo Licensing Corporation の商標です。
- DVD+RW、DVD-RW、DVD+R、DVD-R、DVD ビデオおよび CD のロゴは商標です。
- Blu-ray Disc™、Blu-ray™、Blu-ray 3D™、BD-LIVE™、BONUSVIEW™、及びロゴは Blu-ray Disc Association の商標です。
- “BRAVIA Link” および “BRAVIA Link” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- “PlayStation” は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

- “Sony Entertainment Network ロゴ” および “Sony Entertainment Network” はソニー株式会社の商標です。
- 本機は Fraunhofer IIS および Thomson の MPEG Layer-3 オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。
- この製品は Verance Corporation (ベランス・コーポレーション) のライセンス下にある占有技術を含んでおり、その技術の一部の特徴は米国特許第 7,369,677 号など、取得済みあるいは申請中の米国および全世界の特許や、著作権および企業秘密保護により保護されています。Cinavia は Verance Corporation の商標です。Copyright 2004-2010 Verance Corporation. すべての権利は Verance が保有しています。リバーシ・エンジニアリングあるいは逆アセンブルは禁じられています。
- Windows Media は米国および／またはその他の国における Microsoft Corporation の登録商標または商標です。本製品には Microsoft の知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoft から使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。コンテンツ所有者は、Microsoft PlayReady™ のコンテンツアクセス技術を利用して、著作権保護コンテンツ等の知的財産を保護しています。本機は PlayReady で保護されたコンテンツおよび／または WMDRM で保護されたコンテンツへのアクセスに PlayReady 技術を利用しています。本機がコンテンツの利用を正しく制限しない場合、コンテンツ所有者は、

PlayReady で保護されたコンテンツを利用する機器の能力を取り消すよう Microsoft に要求することができます。この取り消しにより、著作権保護されていないコンテンツまたは他のコンテンツアクセス技術で保護されたコンテンツに影響が及ぶことはありません。コンテンツ所有者は、自らのコンテンツへのアクセスに際し、PlayReady のアップグレードを要求する場合があります。アップグレードを拒否した場合は、アップグレードが要求されるコンテンツにアクセスできないようになります。

- 音楽およびビデオ認識テクノロジーおよび関連データは Gracenote® によって提供されます。

Gracenote は音楽認識テクノロジーおよび関連コンテンツ配信の業界標準です。詳細については、www.gracenote.com をご覧ください。

Gracenote, Inc. 提供の CD、DVD、Blu-ray Disc、音楽およびビデオ関連データ : copyright © 2000-present Gracenote. Gracenote Software, copyright © 2000-present Gracenote. 本製品およびサービスには、Gracenote が所有する 1 つまたは複数の特許が適用されます。適用可能な一部の Gracenote 特許の一覧については、Gracenote の Web サイトをご覧ください。Gracenote®、CDDb、MusicID は Gracenote, Inc. の登録商標です。Gracenote® のロゴとロゴタイプ、および “Powered by Gracenote®” ロゴは Gracenote, Inc. の商標です。



- “Android” は Google Inc. の商標です。
- N マークは NFC Forum, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Bluetooth® ワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc. の商標であり、ソニー株式会社はライセンスに基づきこのマークを使用しています。他のトレードマークおよびトレード名称については、個々の所有者に帰属するものとします。
- DLNA™, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED™ are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.
- 1995-2013 Opera® Devices SDK は Opera Software ASA の登録商標です。

O POWERED
BY OPERA®

- “ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では ™、® マークは省略している場合があります。

Gracenote®エンド ユーザー使用許諾契約書

本ソフトウェア製品または本電器製品には、カリフォルニア州エメリービル市の Gracenote, Inc. (以下「Gracenote」とする) から提供されているソフトウェアが含まれています。本ソフトウェア製品または本電器製品は、Gracenote 社のソフトウェア (以下「Gracenote ソフトウェア」とする) を利用し、音楽 CD や楽曲ファイルを識別し、アーティスト名、トラック名、タイトル情報 (以下「Gracenote データ」とする) などの音楽関連情報をオンライン サーバー-或いは製品に実装されたデータベース (以下、総称して「Gracenote サーバー」とする) から取得するとともに、取得された Gracenote データを利用し、他の機能も実現しています。お客様は、本ソフトウェア製品または本電器製品の使用用途以外に、つまり、エンドユーザー向けの本来の機能の目的以外に Gracenote データを使用することはできません。

お客様は、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバーを非営利的かつ個人的目的のみに使用することについて、同意するものとします。お客様は、いかなる第三者に対しても、Gracenote ソフトウェアや Gracenote データを、譲渡、コピー、転送、または送信しないことに同意するものとします。**お客様は、ここに明示的に許諾されていること以外の目的に、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、または Gracenote サーバーを使用または活用しないことに同意するものとします。**

お客様は、お客様がこれらの制限に違反した場合、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバーを使用するための非独占的な使用許諾契約が解除されることに同意するものとします。また、お客様の使用許諾契約が解除された場合、お客様は Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバー全ての使用を中止することに同意するものとします。

Gracenote は、Gracenote データ、Gracenote ソフトウェア、および Gracenote サーバーの全ての所有権を含む、全ての権利を保有します。いかなる場合においても、Gracenote は、お客様が提供する任意の情報に関して、いかなる支払い義務もお客様に対して負うことはないものとします。お客様は、Gracenote, Inc. が本契約上の権利を Gracenote として直接的にお客様に対し、行使することに同意するものとします。

Gracenote のサービスは、統計的処理を行うために、クエリ調査用の固有の識別子を使用しています。無作為に割り当てられた数字による識別子を使用することにより、Gracenote サービスを利用しているお客様を認識しながらも、特定することなしにクエリを数えられるようにしています。詳細については、Web ページ上の、Gracenote のサービスに関する Gracenote プライバシー ポリシーを参照してください。

Gracenote ソフトウェアと Gracenote データの個々の情報は、お客様に対して「現状有姿」のままで提供され、使用が許諾されるものとします。

Gracenote は、Gracenote サーバーにおける全ての Gracenote データの正確性に関して、明示的または黙示的を問わず、一切の表明や保証をしていません。Gracenote は、妥当な理由があると判断した場合、Gracenote サーバーからデータを削除したり、データのカテゴリを変更したりする権利を保有するものとします。Gracenote ソフトウェアまたは Gracenote サーバーにエラー、障害のないことや、或いは Gracenote ソフトウェアまたは Gracenote サーバーの機能に中断が生じないことの保証は致しません。Gracenote は、将来 Gracenote が提供する可能性のある、新しく拡張や追加されるデータタイプまたはカテゴリを、お客様に提供する義務を負わないものとします。また、Gracenote は、任意の時点でサービスを中止できるものとします。

Gracenote は、黙示的な商品適合性保証、特定目的に対する商品適合性保証、権利所有権、および非侵害性についての責任を負わないものとし、これに限らず、明示的または黙示的ないかなる保証もしないものとします。Gracenote は、お客様による Gracenote ソフトウェアまたは任意の Gracenote サーバーの利用により、得る結果について保証しないものとします。いかなる場合においても、Gracenote は結果的損害または偶発的損害、或いは利益の損失または収入の損失に対して、一切の責任を負わないものとします。

© Gracenote, Inc. 2013

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4 FH1

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式を採用し、与干渉距離は10 mです。

2.4 DS4

この無線製品は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。

Bluetooth無線技術について

Bluetooth無線技術は、パソコンやデジタルカメラなどのデジタル機器同士で通信を行うための近距離無線技術です。およそ10 m程度までの距離で通信を行うことができます。必要に応じて2つの機器をつなげて使うのが一般的な使いかたですが、1つの機器に同時に複数の機器をつなげて使うこともあります。

無線技術によってUSBのように機器同士をケーブルでつなぐ必要はなく、また、赤外線技術のように機器同士を向かい合わせたりする必要もありません。例えば片方の機器をかばんやポケットに入れて使うこともできます。

Bluetooth標準規格は世界中の数千社の会社が賛同している世界標準規格であり、世界中のさまざまなメーカーの製品で採用されています。

Bluetooth機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、Bluetooth機器の特性ごとに機能を標準化したものです。本機は下記のBluetoothバージョンとプロファイルに対応しています。

対応Bluetoothバージョン：

－Bluetooth標準規格Ver. 3.0

対応Bluetoothプロファイル：

－A2DP 1.2（Advanced Audio Distribution Profile）：高音質な音楽コンテンツを送受信する。（本機は受信のみ対応）

－AVRCP 1.3（Audio Video Remote Control Profile）：再生、一時停止、停止など、AV機器を操作する。

ご注意

- Bluetooth機能を使うには、相手側Bluetooth機器が本機と同じプロファイルに対応している必要があります。ただし、同じプロファイルに対

応していても、Bluetooth機器の仕様により機能が異なる場合があります。

- Bluetooth無線技術の特性により、送信側での音声・音楽再生に比べて、本機側での再生がわずかに遅れます。

通信有効範囲

見通し距離で約10 m以内で使用してください。

以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- －Bluetooth接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- －無線LANが構築されている場所
- －電子レンジを使用中の周辺
- －その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

Bluetooth機器と無線LAN (IEEE802.11b/g) は同一周波数帯 (2.4 GHz) を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺で使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- －本機とBluetooth機器を接続するとき、他の無線LAN搭載機器から10 m以上離れたところで行う。
- －10 m以内で使用する場合は、無線LANの電源を切る。

他機器への影響

Bluetooth機器が発生する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBluetooth機器の電源を切ってください。

- －病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- －自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

- 本機は、Bluetooth 無線技術を使用した通信時のセキュリティとして、Bluetooth標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティが充分でない場合があります。Bluetooth無線通信を行う際はご注意ください。
- Bluetooth 技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しなくても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と接続するBluetooth機器は、Bluetooth SIGの定めるBluetooth標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、Bluetooth標準規格に適合していても、Bluetooth機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBluetooth機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

電波法に基づく認証について

本機に内蔵された無線装置は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機に内蔵の無線装置を分解／改造すること
- 本機に内蔵の無線装置に貼ってある証明ラベルをはがすこと

目次

安全のために	2
使用上のご注意	8
Bluetooth 無線技術について	12
箱の中身を確認する	15
各部の名前と働き	16

接続と設定

手順 1: スピーカーを設置する	23
手順 2: スピーカーやテレビ、他機器を つなぐ	28
手順 3: ネットワーク接続の準備	34
手順 4: ワイヤレスの設定をする	34
手順 5: かんたん設定をする	36
手順 6: 再生機器を選ぶ	37
手順 7: サラウンド音効果を楽しむ	38

再生する

ディスクを再生する	41
USB 機器を再生する	43
Bluetooth 搭載機器を楽しむ	43
ワンタッチ (NFC) でスマートフォンと 接続する	45
ネットワークを経由して再生する	47
さまざまなオプション	49

音声を調節する

音声を切り換える	52
デジタル放送用の音声 (AAC) を 楽しむ	53

ラジオを楽しむ

ラジオを聞く	54
--------------	----

その他の機能

“ブラビアリンク” とは?	56
“ブラビアリンク” を使う準備をする	56
“ブラビアリンク” を使う	58
自動でスピーカーを設定する	59
[自動音場補正]	

スピーカーに関する設定をする	60
[スピーカー設定]	
スリープタイマーを使う	62
本体のボタンを動作しないように する	63
(チャイルドロック機能)	
スピーカーイルミネーションを 楽しむ	63
スタンバイ状態時の消費電力を おさえる	63
ウェブサイトを閲覧する	64
ワイヤレスの設定をする	66

詳細な設定と調整

設定メニューを使う	68
[ネットワークアップデート]	69
[映像設定]	69
[音声設定]	71
[BD / DVD 視聴設定]	72
[視聴年齢制限設定]	72
[ミュージック設定]	73
[本体設定]	74
[外部入力設定]	75
[通信設定]	75
[かんたんネットワーク設定]	76
[設定初期化]	76

その他

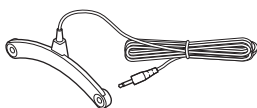
ディスクの取り扱い上のご注意	77
故障かな?と思ったら	77
再生できるディスク	84
再生できるファイルの種類	85
再生対応フォーマット	86
保証書とアフターサービス	87
主な仕様	88
言語コード一覧表	91
索引	93

箱の中身を確認める

- 取扱説明書（本書）（1）
- かんたんスタートガイド（1）
- 保証書（1）
- 「製品登録」のおすすめ（1）
- 本体（1）
- リモコン（1）
- 単4形乾電池（2）
- FMワイヤーアンテナ（1）



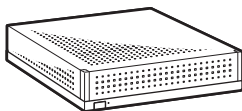
- 音場測定用マイク（1）



- アナログ音声コード
（ステレオミニプラグ↔ピンプラグ×2）
（1）



- サラウンドアンプ（1）



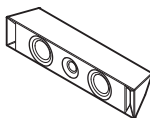
- フロントスピーカー（2）



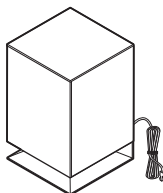
- サラウンドスピーカー（2）



- センタースピーカー（1）



- サブウーファー（スピーカーコード
3 m）（1）



- スピーカーコード（5色、赤／白（3
m）、灰／青（5 m）、緑（2 m））



- スピーカースタンド（フロント／サラウ
ンドスピーカー用）（4）



- ネジ穴カバー（4）



- スタンド取り付け用ネジ（4）

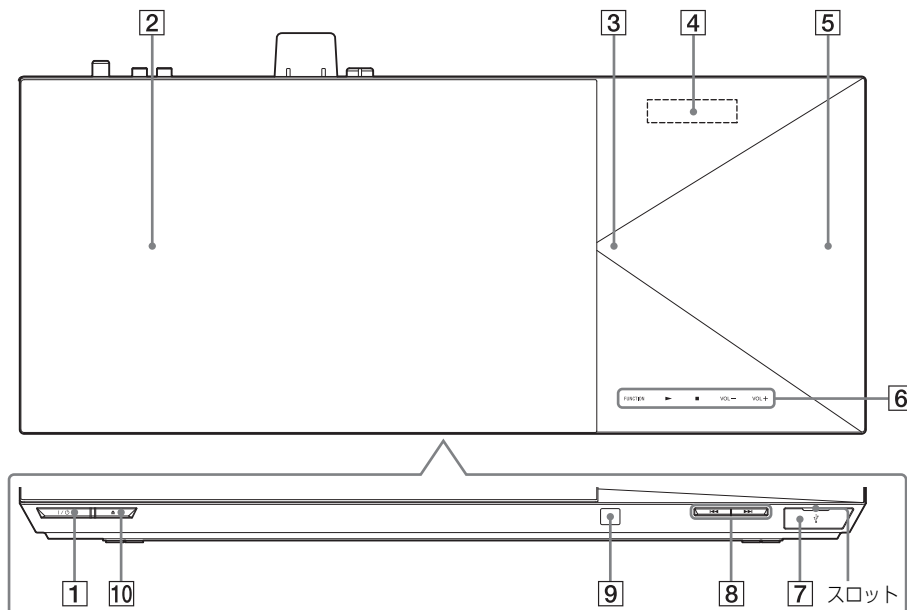


各部の名前と働き

詳しい説明は（ ）内のページをご覧ください。

本体

上面／前面



- [1] I/○ (電源オン／スタンバイ) ボタン**
本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。
- [2] スライドドア (41ページ)**
- [3] LED表示**
白：本機が電源入のときに点灯
青 (Bluetooth状態表示)：
 - ペ어링待機中：速く点滅
 - ペ어링中：速く点滅
 - 接続待機中：点滅
 - 接続完了：点灯
- [4] 上面表示窓**
- [5] N (Nマーク) (45ページ)**
NFC機能を使うときは、NFC機能対応機器をここに近づけます。
- [6] ソフトタッチボタン／表示**
ファンクション
FUNCTIONボタン (37ページ)
再生したいものを選びます。
 - ▶ (再生) ボタン*
 - (停止) ボタン*ボリューム
VOL (音量) + / - ボタン
 - * ▶ ボタンを2秒以上押し続けるとデモストレーションが再生されます。デモストレーションを停止するときは■ボタンを押します。

ご注意

デモンストレーション再生中は、設定されている音量より大きくなる場合があります。

7 (USB) 端子 (43ページ)

カバーのスロットにつめをかけてカバーを開けます。

8 (前／次) ボタン

9 (リモコン受光部)

10 (スライドドア開閉) ボタン

ソフトタッチボタン／表示について

ソフトタッチボタンは点灯中に操作できます。

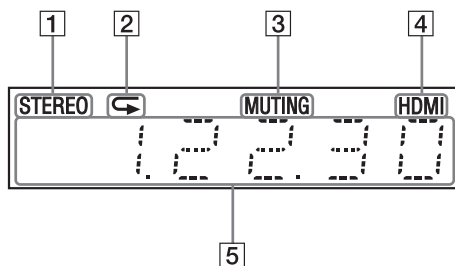
[イルミネーション設定] (74ページ) の設定でソフトタッチボタン表示の点灯／消灯をすることができます。[イルミネーション設定] を [自動] にすると、ソフトタッチボタンの表示が消灯します。この場合は、ソフトタッチボタンのいずれかを押すとソフトタッチボタンが点灯しますので、その後操作したいソフトタッチボタンを押します。

ソフトタッチボタンが消灯しているときにソフトタッチボタンのいずれかを押すと、ソフトタッチボタンが数秒間点灯します。そのときに  ボタンを押すと、 ボタンは数秒間点滅し、再生中は点灯します。

ご注意

- ソフトタッチボタンは軽く触れるだけで操作できます。強く押さないようにしてください。
- ソフトタッチボタンが反応しないときは、ボタンから手を離して数秒間待ってから再度ボタンを押します。

上面表示窓

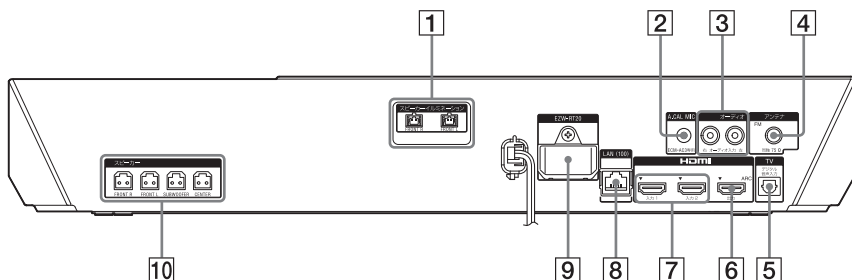


- ① ステレオ音声受信中に点灯します。
(ラジオのみ)
- ② リピート再生中に点灯します。
- ③ 消音中に点灯します。
- ④ 本機のHDMI（出力）端子と他の機器のHDCP準拠のHDMI入力端子と正しくつながれているときに点灯します。
- ⑤ 本機の状態（ラジオ周波数など）を表示します。
「TV」ファンクションのときに画面表示ボタンを押すと、ストリーム情報やデコード状態を表示します。ストリーム情報やデコード状態によっては表示されない場合もあります。

ご注意

[本体設定] の [イルミネーション設定] を [自動] に設定すると、本機の操作を約10秒間しないと上面表示窓は自動的に消灯します。

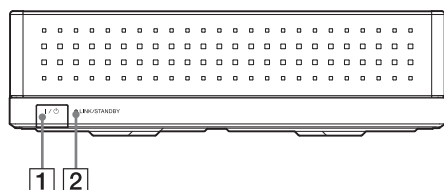
後面



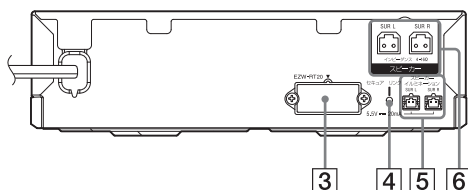
- ① スピーカーイルミネーション端子 (28ページ)
- ② A.CAL MIC端子 (36、59ページ)
- ③ オーディオ（オーディオ入力 左／右）端子 (30、31ページ)
- ④ アンテナ（FM同軸75Ω）端子 (33ページ)
- ⑤ ^{テレビ}TV（デジタル音声入力）端子 (30、31ページ)
- ⑥ HDMI（出力）端子 (30ページ)
- ⑦ HDMI（入力1／入力2）端子 (31ページ)
- ⑧ LAN(100)端子 (34ページ)
- ⑨ ワイヤレスLANシーバー（EZW-RT20） (34ページ)
- ⑩ スピーカー端子 (28ページ)

サラウンドアンプ

前面



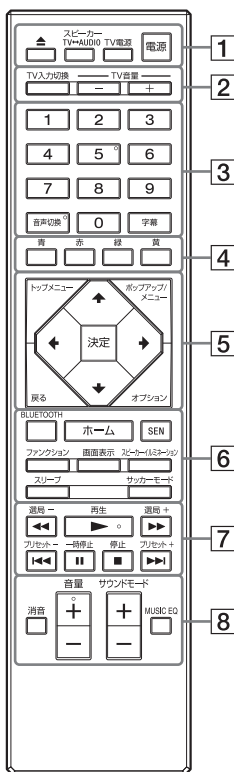
後面



- 1 I/O (電源オン／スタンバイ) ボタン
- 2 LINK/STANDBY表示 (34ページ)
本体とサラウンドアンプのワイヤレス通信状態を確認できます。
- 3 ワイヤレストランシーバー (EZW-RT20) (34ページ)
- 4 セキュアリンクボタン (66ページ)
- 5 スピーカーイルミネーション端子 (28ページ)
- 6 スピーカー端子 (28ページ)

リモコン

付属のリモコンを使って本機とテレビを操作することができます。テレビを操作するときはお手持ちのテレビに合わせた設定が必要です。「テレビのメーカーを設定する」(22ページ)をご覧ください。



数字5ボタン、音声切換ボタン、▶再生ボタン、音量+ボタンには、凸点(突起)が付いています。操作の目印として、お使いください。

本機は自動的にスタンバイ状態になります

本機やリモコンのボタンが30分間操作されなかったときは、本機は自動的にスタンバイ状態になります。

① ▲(スライドドア開閉) ボタン

スライドドアを開閉します。

スピーカー TV ↔ AUDIOボタン

テレビの音声を出力するスピーカー(本機のスピーカーまたはテレビのスピーカー)を切り換えます。この機能は「HDMI機器制御」を「入」に設定したときのみ有効です(74ページ)。

TV電源ボタン

テレビの電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

電源ボタン (36、54ページ)

本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

② TV入力切換ボタン

テレビの入力を切り換えます。

TV音量+ / - ボタン

テレビの音量を調節します。

③ 数字ボタン (55ページ)

タイトル／チャプター番号、プリセット番号などを入力します。

音声切換ボタン (52ページ)

視聴しているBD-ROMやDVDビデオにセリフが複数の言語で記録されている場合、言語を選べます。CDでは音声トラックを選べます。

字幕ボタン

視聴しているBD-ROMやDVDビデオに字幕が複数の言語で記録されている場合、言語を選べます。

④ カラーボタン (青／赤／緑／黄)

各種メニューへショートカットができます。

5 トップメニューボタン

BDやDVDのトップメニューを表示、または閉じます。

ポップアップ／メニューボタン

BD-ROMのポップアップメニューやDVDのメニューを表示、または閉じます。

オプションボタン (39、49、65ページ)

選択できるオプション機能をテレビ画面または上面表示窓に表示します。
(選んだ機能によって表示される場所が異なります。)

戻るボタン

ひとつ前の表示画面に戻ります。

←/↑/↓/→ボタン

上下左右に動かして項目を選びます。

決定ボタン

選んだ項目を決定します。

6 BLUETOOTHボタン

「BT」 ファンクションを選びます。

「BT」ファクションのとき、本体のLED表示（青）が消灯中にこのボタンを押すと、ペアリングを開始、またはペアリングされているBluetooth機器と接続します。

ホームボタン (37、59、68ページ)

ホームメニューを表示または閉じます。

SENボタン

Sony Entertainment Network™オンラインサービスにアクセスします。

ファンクションボタン (37ページ)

再生する機器を選びます。

[外部入力設定] (75ページ) の設定で、ファンクションボタンを押して機器を選ぶときに、使用しない入力をとばすことができます。

画面表示ボタン (42、47、55、64
ページ)

ウェブサイト閲覧情報や再生情報をテレビ画面に表示します。

ラジオのプリセット番号や放送局の周波数などを本体上面表示窓に表示します。

スピーカーイルミネーションボタン
(63ページ)

スピーカーイルミネーションを切/入
します。

スリープボタン (62ページ)

スリープタイマーを設定します。

サッカーモードボタン (39ページ)

サッカー放送に最適化した音声で楽しめます。

⑦ 再生操作ボタン

詳しくは「再生する」(41ページ)を
ご覧ください。

◀◀ / ▶▶ ボタン

- 再生中に押すと、早送り再生または早戻し再生します。押すたびに速さが切り換わります。
- 一時停止中に1秒以上押すと、スロー再生します。
- 一時停止中に軽く押すと、コマ送り再生します。

ご注意

Blu-ray 3Dディスク再生中は、逆方向への
スロー再生、コマ送り再生はできません。

⏮️/⏭️ボタン

前または次のチャプター／トラック／ファイルの先頭に進みます。

▶再生ボタン

再生を開始したり、再生を再開（つづき再生）します。

本機の電源が入で「BD/DVD」ファンクションのときにこのボタンを押すと、ワンタッチプレイを開始します (58ページ)。

II一時停止ボタン

一時停止または再生を再開します。

■停止ボタン

再生を停止すると同時に、停止した位置を記憶します（つづき再生）。

再開する位置は、動画／音楽では最後に停止した位置、写真では最後に再生した写真になります。

デモンストレーションを停止します。

ラジオ操作ボタン

詳しくは「ラジオを楽しむ」（54ページ）をご覧ください。

選局＋／－ボタン

プリセット＋／－ボタン

⑧ 消音ボタン

音を一時的に消します。

音量＋／－ボタン

音量を調節します。

サウンドモード＋／－ボタン（38ページ）

サウンドモードを選びます。

MUSIC EQボタン（39ページ）

音楽を聞いているときに、本機にあらかじめ設定されているイコライザーを選びます。

テレビのメーカーを設定する

本機のリモコンでお手持ちのテレビの操作ができます。

ご注意

リモコンの電池を取り換えたときは、メーカー番号が自動的に初期設定に戻ることがあります。その場合は、メーカー番号をもう一度合わせなおしてください。

1 TV電源ボタンを押したまま、数字ボタンでテレビのメーカー番号（2桁）を入力する。

メーカー	メーカー番号
ソニー	01（初期設定）
三菱	02
LG	03
パナソニック	04
日立	05
シャープ	06
東芝	07

2 TV電源ボタンを離す。

以下のボタンがテレビ操作に使用できません。

TV電源ボタン

テレビの電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

TV入力切換ボタン

テレビの入力を切り換えます。

TV音量＋／－ボタン

テレビの音量を調節します。

接続と設定

手順1：スピーカーを設置する

スピーカーを組み立てる

フロントスピーカーやサラウンドスピーカーを床やテーブルに設置する場合は、スピーカーにスタンドを取り付けます。また、センタースピーカーにスピーカーコードを接続します。

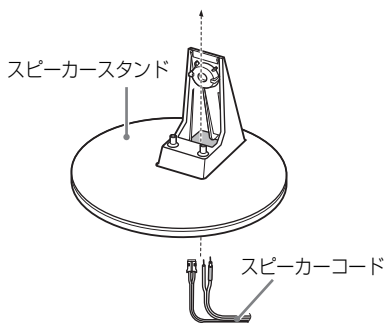
ご注意

スピーカーを壁に掛けて使用する場合は、スピーカースタンドを取り付けしないでください。

フロントスピーカー、サラウンドスピーカーを床やテーブルに設置する場合

フロントスピーカー、サラウンドスピーカーにスタンド、スピーカーコードを取り付けます。

1 スピーカースタンドにスピーカーコードを通す。

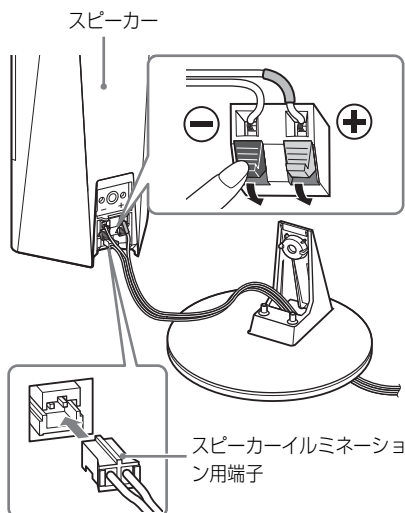


2 スピーカーにスピーカーコードをつなぐ。

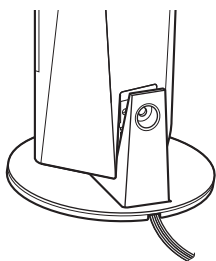
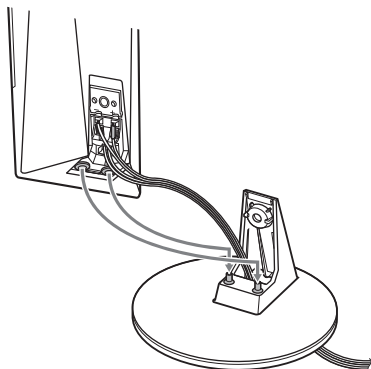
スピーカーコードの端子の色が、スピーカー背面のラベルの色と同じになるようにつなぎます。

- フロントスピーカー左：白
- フロントスピーカー右：赤
- サラウンドスピーカー左：青
- サラウンドスピーカー右：灰

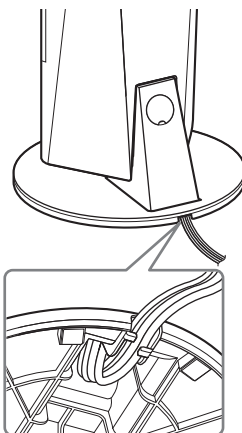
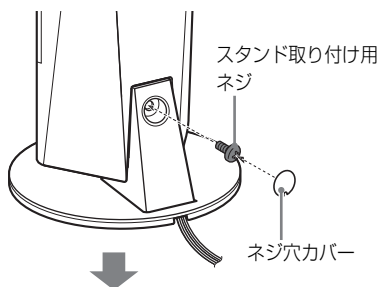
スピーカーコードは、スピーカーイルミネーション用のコードが一緒になっています。スピーカーイルミネーション用の端子もつないでください。



3 スピーカーをスピーカースタンドにはめる。



4 スピーカースタンドをスタンド取り付け用ネジで固定し、ネジ穴カバーを取り付け、スピーカーコードをコード留めで固定する。



フロントスピーカー、サラウンドスピーカーを壁に掛けて設置する場合

フロントスピーカー、サラウンドスピーカーにスピーカーコードをつなぎます。スピーカーコードの端子の色が、スピーカー背面のラベルの色と同じになるようにつなぎます。

- フロントスピーカー左：白
- フロントスピーカー右：赤
- サラウンドスピーカー左：青
- サラウンドスピーカー右：灰

スピーカーイルミネーション用のコードが一緒になっています。スピーカーイルミネーション用の端子もつないでください。



ちょっと一言

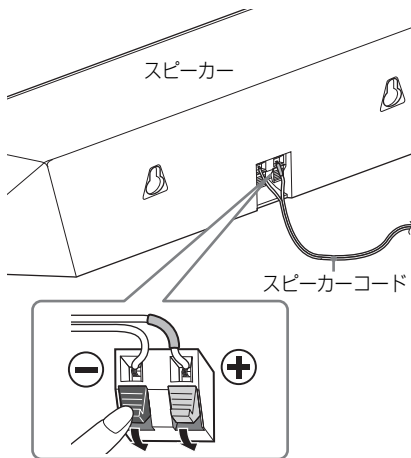
壁への取り付けかたについては、「スピーカーを壁に取り付ける」(26ページ)をご覧ください。

5 センタースピーカーにスピーカーコードをつなぐ

センタースピーカーにスピーカーコードをつなぎます。

スピーカーコードの端子の色が、スピーカー背面のラベルの色と同じになるようにつなぎます。

- センタースピーカー：緑



ちょっと一言

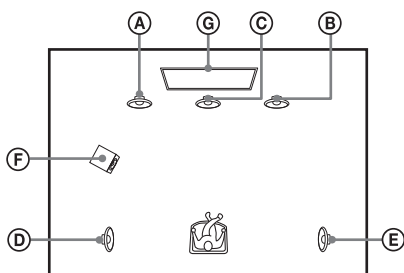
壁への取り付けかたについては、「スピーカーを壁に取り付ける」(26ページ)をご覧ください。

スピーカーを設置する

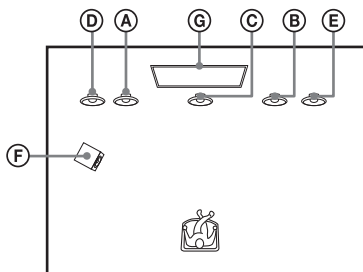
下記のイラストを参考にスピーカーを設置します。

- Ⓐ フロントスピーカー左
- Ⓑ フロントスピーカー右
- Ⓒ センタースピーカー
- Ⓓ サラウンドスピーカー左
- Ⓔ サラウンドスピーカー右
- Ⓕ サブウーファー
- Ⓖ テレビ

サラウンドスピーカーを視聴位置の後ろに置く（スピーカー配置：[スタンダード]）



すべてのスピーカーを視聴位置の前に置く（スピーカー配置：[オールフロント]）



ご注意

- 実際に設置したスピーカーに合わせて、スピーカー配置の設定を行ってください（60ページ）。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床にスピーカーを置くときは、床に変色、染みなどが残ることがありますのでご注意ください。
- スピーカーを傾けたり、スピーカーに寄りかかったりしないでください。倒れることがあります。
- 付属のスピーカーは防磁仕様ではありません。ブラウン管テレビやプロジェクターの近くに設置すると、画面に色むらが起きることがあります。

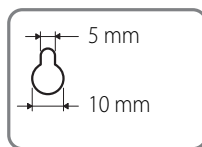
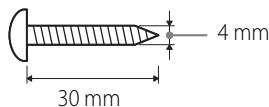
ちょっと一言

- スピーカー配置を「オールフロント」に設定した場合は、より効果的な音声を楽しむために、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーは隣り合わせに設置することをおすすめします。
- スピーカーは壁に掛けて使用することもできます。詳しくは「スピーカーを壁に取り付ける」（26ページ）をご覧ください。

スピーカーを壁に取り付ける

1 スピーカー背面の穴に合うネジ（別売）を用意する。

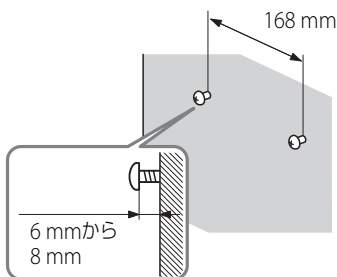
ネジのサイズについては下記の図でご確認ください。



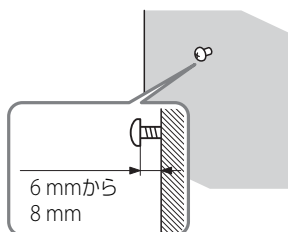
スピーカー背面の穴

2 壁にネジをとめる。

センタースピーカー



その他のスピーカー

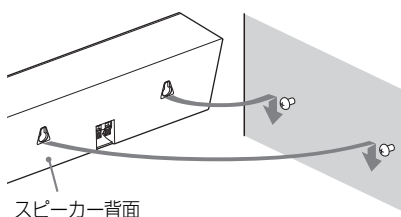


ご注意

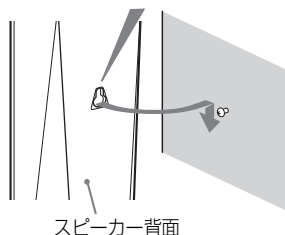
- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損するおそれがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。スピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

3 スピーカー背面の穴をネジにかける。

センタースピーカー



その他のスピーカー



手順2：スピーカー やテレビ、他機器 をつなぐ

電源コードは、すべての接続が終わってからつないでください。

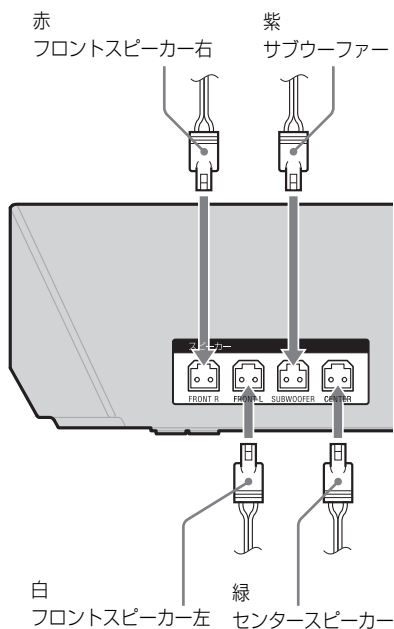
ご注意

音量調節ができる機器をつなぐときは、歪まない程度に音量を小さくしてください。

スピーカーをつなぐ

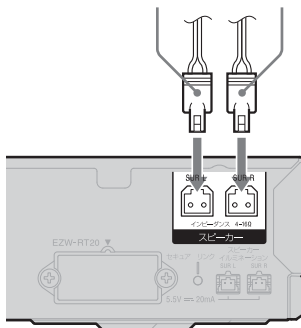
スピーカーコードの端子の色が、本体やサラウンドアンプのスピーカー端子の色と同じになるようにつなぎます。
カチッと音がするまで確実に差し込んでください。

本体につなぐ



サラウンドアンプにつなぐ

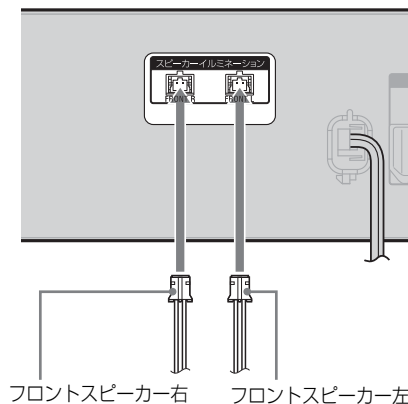
青 サラウンドスピーカー左
灰 サラウンドスピーカー右



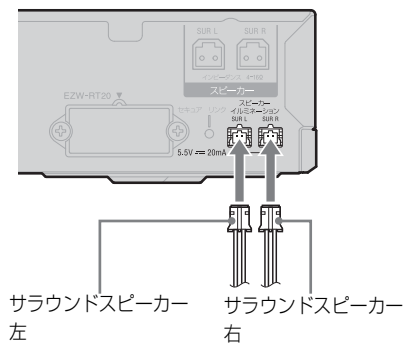
スピーカーイルミネーション端子をつなぐ

スピーカーコードといっしょになっているスピーカーイルミネーション端子を、本体やサラウンドアンプにつなぎます。スピーカーのイルミネーションを楽しむことができます。

本体につなぐ

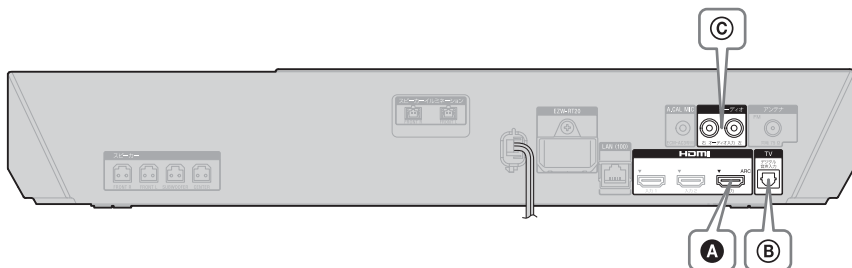


サラウンドアンプにつなぐ

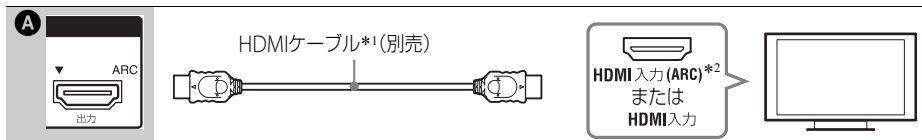


テレビをつなぐ

お使いのテレビの入力端子をご確認のうえ、つなぎかたを選んでください。



映像接続

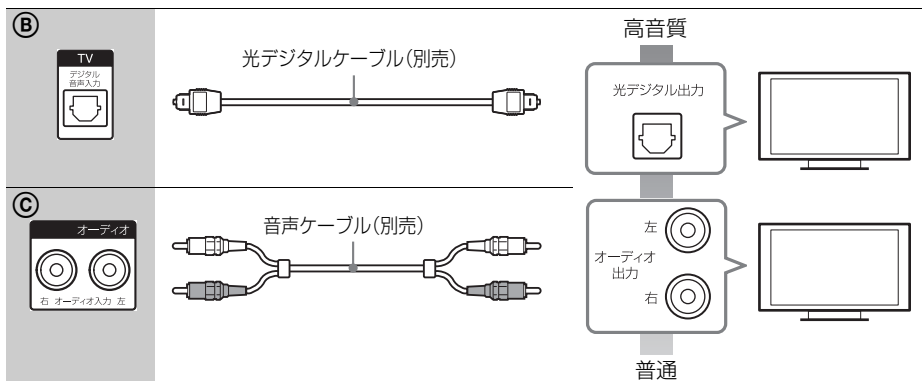


*1 ハイスピード HDMI ケーブル

*2 お使いのテレビの HDMI 入力端子がオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応しているときは、HDMI ケーブル接続でテレビのデジタル音声を入力することができます。詳しくは [HDMI 設定]（74 ページ）をご覧ください。

音声接続

お使いのテレビの HDMI 入力端子がオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していないときは、本機でテレビの音声を聞くために音声接続（BまたはC）を行います。



ちょっと一言

AおよびBの接続時は「TV」ファンクション、Cの接続時は「AUDIO」ファンクションを選んで、音声を楽しむことができます。

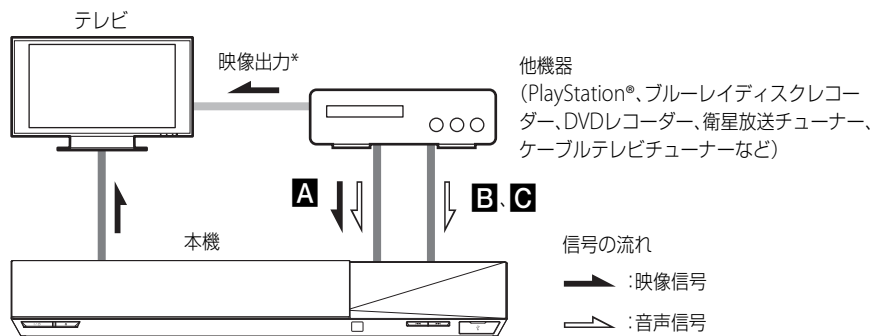
オーディオリターンチャンネル（ARC）機能について

テレビへの映像・音声信号の出力に加えて、テレビ側から出力される音声の入力の両方ができます。（テレビの HDMI 入力端子がオーディオリターンチャンネル（ARC）機能対応かどうかは、テレビの取扱説明書にてご確認ください。）

その他の機器をつなぐ

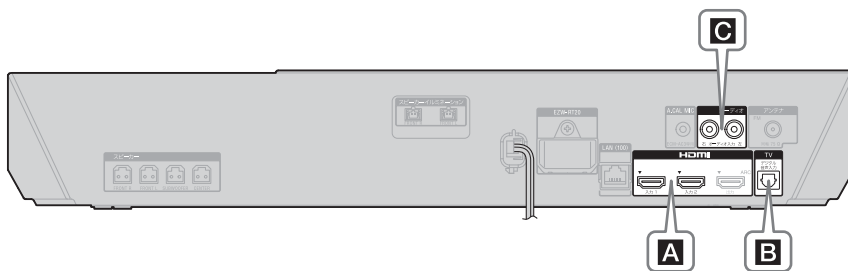
本機とテレビ、その他の機器は、以下のようにつなぎます。本機の電源がオフ（スタンバイ）のときは、本機経由でつないだ機器の映像と音声をテレビで楽しむことができません。接続方法について詳しくは、こちらをご覧ください。

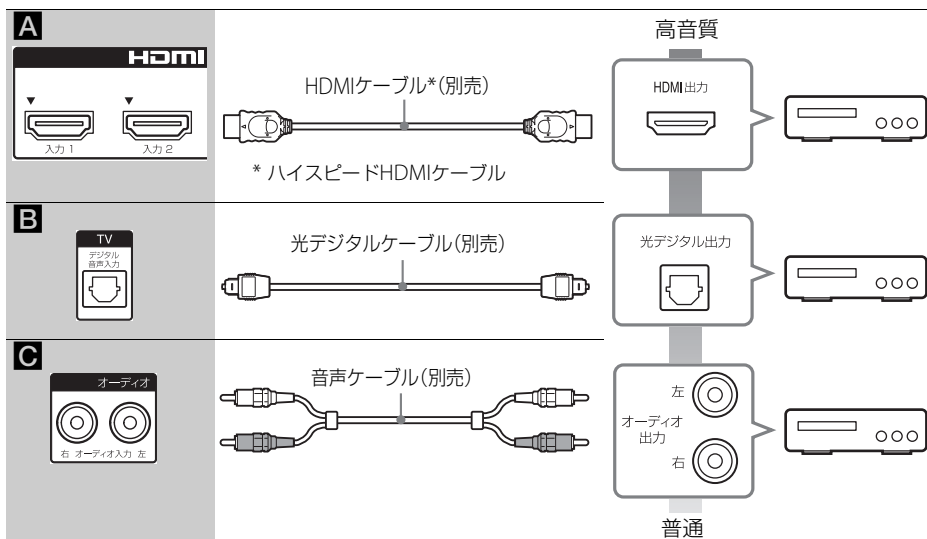
<http://www.sony.jp/support/home-theater/>



* この接続は、**A**の接続（HDMI接続）を行った場合には必要ありません。

お使いの機器の出力端子をご確認のうえ、つなぎかたを選んでください。





【A】の接続を行った場合

HDMI（入力1）端子またはHDMI（入力2）端子から入力された映像信号と音声信号がHDMI（出力）端子から出力されます。
「HDMI1」または「HDMI2」ファンクションを選択してください。

ご注意

HDMI（入力1）端子またはHDMI（入力2）端子から入力された音声信号をHDMI（出力）端子から出力するには、音声出力の設定を変える必要があります。詳しくは、【音声設定】の【音声出力】（71ページ）をご覧ください。

【B】または【C】の接続を行った場合

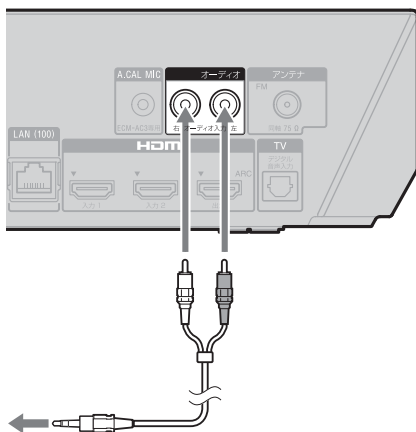
本機と他機器の映像がテレビに入力されるようにつなぎます。他機器の音声信号は、本機で出力されます。【B】の接続時は「TV」ファンクション、【C】の接続時は「AUDIO」ファンクションを選んで、音声を楽しむことができます。

ご注意

この接続の場合は、【本体設定】にある【HDMI設定】の【HDMI機器制御】を【切】に設定します（74ページ）。

スマートフォン、ウォークマンなどのオーディオ機器をつなぐには

付属のアナログ音声コード（ステレオミニプラグ↔ピンプラグ×2）を使ってつなぎます。



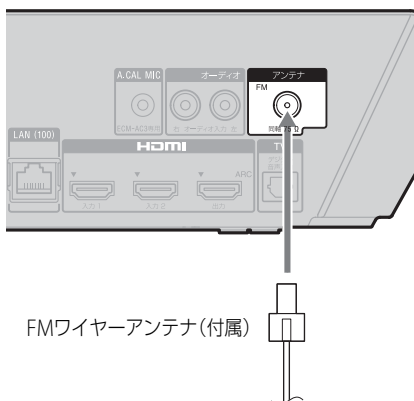
スマートフォン、ウォークマンなどのオーディオ機器の音声出力端子またはヘッドホン端子

ちょっと一言

この接続時は、「AUDIO」ファンクションを選んで音声を楽しむことができます。その場合、オーディオ機器を適当な音量にします。それでも音量が小さいときは、本機で音量を調節します。

アンテナをつなぐ

本体裏面



FMワイヤーアンテナ(付属)

ご注意

- FMワイヤーアンテナは、完全に伸ばしてください。
- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、できるだけ水平を保ってください。

ちょっと一言

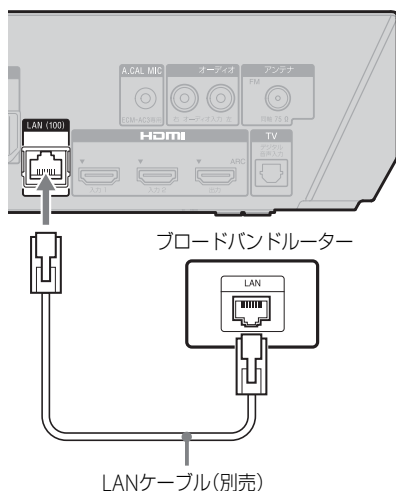
FM放送の受信状態が良くないときは、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本体と屋外アンテナをつなぎます。

手順3：ネットワーク接続の準備

ちょっと一言

- [かんたんネットワーク設定] で本機をネットワークにつなぐことができます。詳しくは「手順5：かんたん設定をする」(36ページ)をご覧ください。
- ネットワークの接続は、有線のみの対応です。

LAN ケーブルを本機のLAN (100) 端子につなぎ、インターネットにつなぎます。



ちょっと一言

シールドタイプのLANケーブルをお使いください (ストレートケーブル、クロスケーブルどちらも使用できます)。

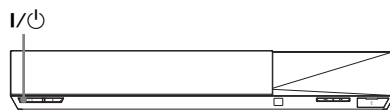
手順4：ワイヤレスの設定をする

本体は、サラウンドスピーカーがつけられたサラウンドアンプに、音声をワイヤレスで送信します。ワイヤレス通信を有効にするために以下の手順を行います。

1 本体の電源コードをコンセントにつなぐ。

電源コードをつなぐ前に、「手順2：スピーカーやテレビ、他機器をつなぐ」(28ページ) の接続が終わっているかどうか確認します。

2 本体のI/⏻ (電源) ボタンを押して、電源を入れる。



3 サラウンドアンプの電源コードをコンセントにつなぐ。



ワイヤレス通信が有効になると、LINK/STANDBY表示が点灯します。LINK/STANDBY表示が緑色に点灯しない場合は、「ワイヤレス音声」(80ページ) をご覧ください。

ご注意

「BT」ファクションのときは、ワイヤレス通信が自動的にオフになります。

LINK/STANDBY表示について

LINK/STANDBY表示は、ワイヤレス通信の状態を示します。

表示	状態
緑色に点灯	本体の電源入、ワイヤレス通信は有効で、サラウンド音声を受信している。
橙色に点灯	本体の電源入、ワイヤレス通信は有効で、サラウンド音声を受信している。セキュアリンク機能が入になっている。
緑色または橙色でゆっくり点滅	ワイヤレス通信が有効になっていない。
赤色に点灯	本体がスタンバイ状態でサラウンドアンプもスタンバイ状態になっている、またはワイヤレス通信が有効になっていない。
消灯	サラウンドアンプの電源切。
赤色に点滅	サラウンドアンプが保護モードになっている。

スタンバイ状態について

本体がスタンバイ状態になっていたり、ワイヤレス通信が有効になっていないときは、サラウンドアンプは自動的にスタンバイ状態になります。

本体の電源が入り、ワイヤレス通信が有効になると、サラウンドアンプの電源が自動的に入ります。

ワイヤレスでつなぐ機器を特定するには

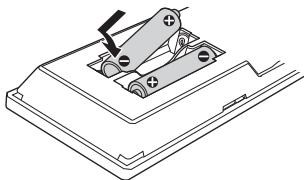
自宅や近隣で複数のワイヤレス機器を使っていると、混線することがあります。これを防ぐために、ワイヤレスでつなぐ機器を特定することができます（セキュアリンク）。詳しくは、「ワイヤレス通信する機器を特定する」（66ページ）をご覧ください。

手順5：かんたん設定をする

本機の基本的な設定とネットワーク設定を以下の手順で行います。

1 リモコンに単4形乾電池を2本入れる。

⊕と⊖の向きをリモコンの表示に合わせてください。



2 テレビの電源を入れる。

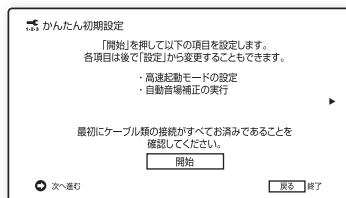
3 本体背面のA.CAL MIC端子に音場測定用マイクを接続する。

マイクは耳と同じ高さになるように、またテレビ画面の方向に向けて、市販の台や三脚を使って固定してください。各スピーカーの前面がマイクに向くようにして、スピーカーとマイクの間には障害物などがないようにしてください。

4 電源ボタンを押して、電源を入れる。

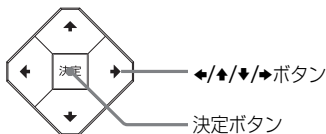
5 本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。

【かんたん初期設定】画面がテレビ画面に表示されます。



6 【かんたん初期設定】を行う。

リモコンの◀/▶/⬅/➡ボタンと決定ボタンを使い、画面の指示にしたがって設定します。



【自動音場補正】について詳しくは、「自動でスピーカーを設定する」(59ページ)をご覧ください。

7 【かんたん初期設定】が完了したら、▶/◀ボタンを押して【かんたんネットワーク設定】を選び、決定ボタンを押す。

【かんたんネットワーク設定】画面がテレビ画面に表示されます。

8 [かんたんネットワーク設定] を行う。

リモコンの◀/▶/⏮/⏭ボタンと決定ボタンを使い、画面の指示にしたがって設定します。

ネットワークにつながらない場合は、「ネットワーク接続」(83ページ)をご覧ください。

[かんたんネットワーク設定] の画面を呼び出すには

- 1 ホームボタンを押す。
ホームメニューがテレビ画面に表示されます。
- 2 ◀/▶ボタンを押して、ホームメニューの  [設定] を選ぶ。
- 3 ▶/▶ボタンを押して、[かんたんネットワーク設定] を選び、決定ボタンを押す。

ちょっと一言

ホームメニュー内の [インターネットビデオ] をクリックし、最新のインターネットコンテンツをダウンロードしてください。最新コンテンツのアイコンが表示されます。

[かんたん初期設定] をやり直すには

- 1 リモコンのホームボタンを押し、[設定] から [設定初期化] を選び、決定ボタンを押す。
- 2 [お買い上げ時の状態に設定] を選び、決定ボタンを押す。
- 3 [すべての設定の内容] を選び、設定の初期化を行う。

初期化後、電源を入れ直すとかんたん初期設定画面が表示されます。

ご注意

設定を初期化した場合、設定した値はすべてお買い上げ時の状態に戻ります。

手順6：再生機器を選ぶ

ファンクションボタンを繰り返し押して、本体上面表示窓にお好みのファンクションを表示させる。

ファンクションボタンを一度押すと、選ばれているファンクションが本体上面表示窓に表示されます。

ファンクションボタンを繰り返し押すと、以下のようにファンクションが切り換わります。

「BD/DVD」 → 「USB」 → 「FM」 → 「HDMI1」 → 「HDMI2」 → 「TV」 → 「BT」 → 「AUDIO」

「BD/DVD」

本機で再生されるディスクやネットワーク機器

「USB」

♻(USB) 端子につないだUSB機器 (43ページ)

「FM」

FMラジオ (54ページ)

「HDMI1」 / 「HDMI2」

HDMI (入力1) 端子またはHDMI (入力2) 端子につないだ機器 (31ページ)

「TV」

TV (デジタル音声入力) 端子につないだテレビなどの機器、またはHDMI (出力) 端子につないだオーディオリターンチャンネル機能対応のテレビ (30ページ)

「BT」

Bluetooth搭載機器の音楽ソース (43ページ)

「AUDIO」

オーディオ（オーディオ入力 左／右）端子につないだ機器（31ページ）

ちょっと一言

- テレビ画面をみながら、ファンクションボタン、**◀/▶**ボタン、決定ボタンで切り換えられるファンクションもあります。
- リモコンのBLUETOOTHボタンを押して「BT」ファンクションを選ぶこともできます。
- 表示窓に「HOME」または「SET UP」が表示されているときは、音声は出ません。

手順7：サラウンド音効果を楽しむ

さまざまな種類の音源に合わせて調整されたサウンドモードを選ぶことができます。

サウンドモードを選ぶ

サウンドモード+／-ボタンを繰り返し押し、テレビ画面にお好みのサウンドモードを表示させる。

【Auto】（オート）

再生するディスクやストリームに合わせて自動的に映画鑑賞、もしくは音楽鑑賞に最適なサウンド効果を選びます。

- 2チャンネル音声のとき：2チャンネルの音声を5.1チャンネルサラウンドにシミュレートして出力します。
- マルチチャンネル音声のとき：録音された際のフォーマットで出力します。

【Movie】（ムービー）

映画鑑賞に最適化された音声を出力します。

【Music】（ミュージック）

音楽再生に最適化された音声を出力します。

【Digital Music】（デジタルミュージック）

圧縮音声をよりクリアに、よりダイナミックな音声にします。また音声レベルを均一化します。

【3D Surround】（3Dサラウンド）

耳の近くで仮想的なサウンドフィールドを作り出すことによって、奥行きと臨場感のある3Dサウンドを再現するソニー独自のアルゴリズムです。

[Philharmonic Hall] (Berlin Philharmonic Hall) (ベルリンフィルハーモニックホール)

音楽CDなどの2チャンネルステレオ音声のときに、ベルリンフィルハーモニックホールの音響特性を再現します。

[Night] (ナイト)

夜遅くなど、音量を下げて映画を見るときでも、台詞を明瞭に聞き取れるようにします。

[Demo Sound] (デモサウンド)

耳をひきつけるようなダイナミックなサウンド効果でデモンストレーションに最適です。

ちょっと一言

- [Auto] サウンドモードを選んでいるときに、ベルリンフィルハーモニックのインターネットコンテンツを再生すると、[Philharmonic Hall] サウンドモードを自動的に選びます。
- スピーカー配置で [オールフロント] を選んでマルチチャンネル音声を再生するとき、[Auto] または [3D Surround] サウンドモードを選ぶと、仮想サラウンド音声を楽しめます。
- 音楽CDなどの2チャンネル音声をマルチチャンネル出力で楽しむときは、[Auto] サウンドモードをおすすめします。
- サウンドモード+/- ボタンを押してサウンドモードを選ぶとき、サウンドモードは本体上面表示窓にも表示されます。(上面表示窓では大文字で表示されます。テレビ画面と表示が違う場合もあります。)
- 「TV」ファンクションのとき、サウンドモードはテレビ画面に表示されません。

オプションメニューからサウンドモードを選ぶには

- 1 オプションボタンを押し、**▲/▼** ボタンを押して [サウンドモード] を選び、決定ボタンを押す。
- 2 **▲/▼** ボタンを押してサウンドモードを選び、決定ボタンを押す。

音楽用イコライザー設定を選ぶには

再生中にMUSIC EQボタンを繰り返し押す。音楽にあわせたイコライザー設定を選ぶことができます。

ボタンを押すたびに、以下のようにイコライザー設定が切り換わります。

[Standard] (スタンダード) → [Rock] (ロック) → [Hiphop] (ヒップホップ) → [Electronica] (エレクトロニカ)

イコライザー設定は、[Music] サウンドモードのオプションメニューから選ぶこともできます。

ご注意

サウンドモードは、[サウンドエフェクト] が [サウンドモード 入] に設定されているときに選ぶことができます (71ページ)。[サウンドモード 入] 以外に設定されているときは、サウンドモードは有効になりません。

サッカーモードを選ぶ

サッカー放送中にサッカーモードボタンを押す。

サッカースタジアムの観客席で観戦しているかのような臨場感を再現します。

[サッカーモード：ナレーション オン]：歓声を強調するとともに、スタジアムの雰囲気再現することで、サッカー観戦の臨場感を楽しめます。

[サッカーモード：ナレーション オフ]：ナレーションの音量を小さくすることで、よりサッカー観戦への没入感を高めます。このモードに設定すると、ナレーションなどの人の声や緊急放送のアラームなどがほとんど聞こえなくなります。

[サッカーモード オフ]：サッカーモードが解除されます。

ご注意

- サッカーモードは、サッカー試合中にご使用いただくことをおすすめします。
- [サッカーモード：ナレーション オフ] を選んでいて音声に違和感を感じるときは、[サッカーモード：ナレーション オン] をおすすめします。
- 本機の電源を切ったときは、サッカーモードも解除されます。
- モノラル音声には対応していません。

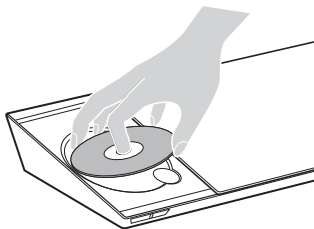
ちょっと一言

- オプションメニューからサッカーモードを選ぶこともできます。（テレビ視聴時はリモコンのサッカーモードボタンで選んでください。）
- 5.1チャンネル音声を選べる場合は、テレビ側で5.1チャンネル音声を選ぶことをおすすめします。

ディスクを再生する

再生できるディスクについて詳しくは、「再生できるディスク」(84ページ)をご覧ください。

- 1 本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。
- 2 ▲ボタンを押してスライドドアを開け、ディスクをはめ込む。
再生したい面を下にして、カチッと音がするまではめ込みます。レンズ部には触れないよう、ご注意ください。



- 3 ▲ボタンを押してスライドドアを閉じる。
再生が始まります。
再生が自動的に始まらないときは、
[ビデオ]、[ミュージック]、または [フォト] で ● を選び、決定ボタンを押します。

BDの特典映像を楽しむ

BD-LIVEロゴ*が記載されたBD-ROMにはスペシャルコンテンツ (BONUSVIEW) や、ネットワークから外部メモリー (ローカルストレージ "local storage") にダウンロードして楽しむコンテンツ (BD-LIVE) などが用意されているものがあります。

* BD-LIVE™

- 1 USBメモリーを⚡(USB) 端子に差し込む (43ページ)。
容量1GB以上のUSBメモリーをローカルストレージとして使用してください。
- 2 BD-LIVEの準備をする (BD-LIVEのみ)。
 - 本機をネットワークにつなぎます (34ページ)。
 - [BDインターネット接続] を [許可する] に設定します (72ページ)。
- 3 BONUSVIEW (ボーナスビュー) やBD-LIVE (BDライブ) 対応のBD-ROMを入れる。
操作方法はディスクによって異なります。ディスクに付属の取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

USB メモリー内のデータを消去するには、
[ビデオ] で [BDデータ削除] を選び、決定ボタンを押します。budaフォルダー内のすべてのデータが消去されます。

Blu-ray 3Dを楽しむ

Blu-ray 3Dロゴ*が記載されたBlu-rayディスクを再生できます。



1 Blu-ray 3Dディスクを再生する準備をする。

- 本機をハイスピードHDMIケーブルで3D対応のテレビにつなぎます(30ページ)。
- [映像設定] の [3D出力設定] と [3Dテレビ画面サイズ設定] を設定します(69ページ)。

2 Blu-ray 3Dディスクを入れる。

操作方法はディスクによって異なります。ディスクに付属の取扱説明書をご覧ください。

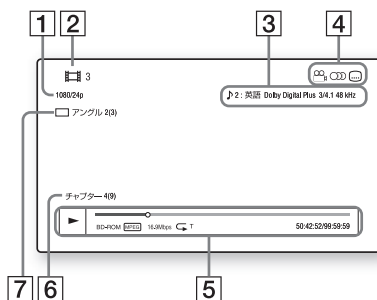
ちょっと一言

お使いの3D対応のテレビの取扱説明書もご覧ください。

再生情報をテレビ画面に表示する

画面表示ボタンを押すと、テレビ画面に再生情報などを表示することができます。ディスクの種類や本機の状態によって、表示される情報は異なります。

例：BD-ROMの場合



- 1 出力解像度／フレームレート
- 2 タイトル番号またはタイトル名
- 3 音声設定
- 4 使用可能な機能（ アングル／ 音声／ 字幕）
- 5 再生情報
再生モード／再生位置表示バー／ディスクの種類／ビデオコーデック／ビットレート／リピート設定／経過時間／総再生時間など
- 6 チャプター番号
- 7 画面アングル

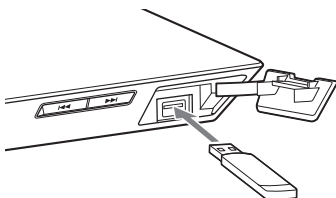
USB機器を再生する

USB機器のビデオ、音楽、写真ファイルを再生することができます。

再生可能なファイルについては「再生できるファイルの種類」(85ページ)をご覧ください。

1 USB (USB) 端子にUSB機器をつなぐ。

つなぐ前にUSB機器の取扱説明書をご覧ください。



2 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

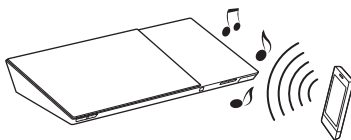
3 左/右ボタンを押して、[ビデオ]、[ミュージック]、または [フォト] を選ぶ。

4 上/下ボタンを押して [USB機器] を選び、決定ボタンを押す。

ご注意

操作中はUSB機器を取り外さないでください。USB機器を本機につないだり取り外したりするときは、データを失ったりUSB機器の故障を避けるために、必ず本機の電源を切ってください。

Bluetooth搭載機器を楽しむ



Bluetooth搭載機器とペアリングする

Bluetooth機能を使うには、あらかじめ接続する機器を登録しておく必要があります。この登録のことをペアリングといいます。一度ペアリングを行うと、次回以降はペアリングを行う必要はありません。

1 本機とBluetooth搭載機器を1 m以内に置く。

2 BLUETOOTHボタンを押す。

またはホームメニューの [外部入力] から [Bluetooth AUDIO] を選びます。

3 Bluetooth搭載機器をペアリングモードにする。

Bluetooth搭載機器側をペアリングモードにする方法は、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

4 Bluetooth搭載機器の検出した機器の一覧から「BLU-RAY HOME THEATRE SYSTEM」を選ぶ。

5分以内に選ばなかったときは、ペアリングモードが解除されます。

ご注意

Bluetooth搭載機器によっては、パスコードの入力を要求されます。その場合は、本機のパスコード「0000」を入力してください。パスコードは、パスキー、PINコード、PINナンバー、パスワードなどと呼ばれる場合があります。

5 ペアリングが完了すると

Bluetooth搭載機器は自動的に本機に接続する。

Bluetooth搭載機器名がテレビ画面に表示されます。

ご注意

本機は9台までの機器を登録することができます。9台分を登録したあと新たな機器をペアリングすると、9台のなかで最後に接続した日時が最も古い機器の登録情報が、新たな機器の情報で上書きされます。

6 Bluetooth搭載機器を操作して再生を開始する。

7 音量を調節する。

Bluetooth搭載機器を適度な音量にします。それでも音量が小さいときは、本機で音量調節します。

ペアリング操作をやめるには

ホームボタンまたはファンクションボタンを押します。

本機からBluetooth搭載機器へ接続する

本機からBluetooth搭載機器へ接続することができます。

操作をはじめの前に、以下の点をご確認ください。

- 相手側のBluetooth搭載機器のBluetooth機能が有効になっている。
- 本機と相手側のBluetooth搭載機器のペアリングが完了している（43ページ）。

1 BLUETOOTHボタンを押す。

ご注意

一番新しく登録したBluetooth搭載機器に接続するときは、▶再生ボタンを押して手順5にすすみます。

2 オプションボタンを押す。

3 ▲/▼ボタンを押して「機器リスト」を選び、決定ボタンを押す。

ペアリングされているBluetooth搭載機器名がリスト表示されます。

4 ▲/▼ボタンを押してBluetooth搭載機器を選び、決定ボタンを押す。

5 ▶再生ボタンを押して再生を開始する。

6 音量を調節する。

Bluetooth搭載機器を適度な音量にします。それでも音量が小さいときは、本機で音量調節します。

ご注意

Bluetooth搭載機器は本機と接続すると、本機のリモコンボタン（▶再生ボタン、⏸一時停止ボタン、■停止ボタン、◀◀/▶▶ボタン、◀◀/▶▶ボタン）を使って操作することができます。

Bluetooth搭載機器の接続を解除するには

ホームボタン、ファンクションボタン、または戻るボタンを押します。

Bluetooth搭載機器をリスト表示から削除するには

- 1 「本機からBluetooth搭載機器へ接続する」の手順1から3を行う。
- 2 ▲/▼ボタンを押してBluetooth搭載機器を選び、オプションボタンを押す。
- 3 ▲/▼ボタンを押して「削除」を選び、決定ボタンを押す。

- 4 テレビ画面の指示に従って、◀/▶/⏮/⏭ボタンと決定ボタンを使って Bluetooth搭載機器をリストから削除する。

ご注意

- Bluetooth搭載機器と接続中は、他の Bluetooth搭載機器と接続することはできません。
- 「BT」ファンクションのときは、本機は自動的に以下の設定となります。
 - ーワイヤレス通信がオフになり、サラウンドスピーカーからは音がでません。
 - ースピーカーからの出力が [2ch Stereo] に固定され、サウンドモードの変更ができません。
 - ーサラウンドスピーカーのスピーカーイルミネーションが消灯します。

ワンタッチ（NFC）でスマートフォンと接続する

スマートフォンを本機の **N** マーク部分にタッチするだけで、Bluetooth機器の登録や接続が行われます。

対応するスマートフォン

NFC機能またはおサイフケータイ機能を搭載したスマートフォン
(対応OS：Android 2.3.3以降、Android 3.xを除く)

NFCとは

携帯電話やICタグなど、さまざまな機器間で近距離無線通信を行うための技術です。NFC機能搭載機器の **N** に「タッチする」だけで、簡単にデータ通信が可能となります。

1 スマートフォンに「NFC簡単接続」アプリをダウンロードする。

Google Playで入手できるAndroid専用の無料のアプリです。「NFC簡単接続」で検索するか、以下の二次元コードでアクセスし、アプリをダウンロードします。ダウンロードには別途通信料が発生します。

二次元コード読み取りアプリでご利用ください。



ちょっと一言

お使いのスマートフォンによっては、「NFC簡単接続」アプリをダウンロードしなくてもワンタッチ接続が可能な場合があります。

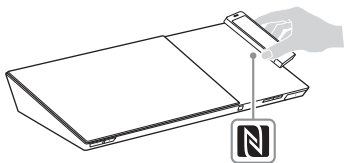
その場合の動作や仕様は、本書の説明と異なる場合があります。詳しくは、お使いのスマートフォンの取扱説明書をご覧ください。

2 スマートフォンで「NFC簡単接続」を起動する。

アプリの画面が表示されていることを確認します。

3 スマートフォンを本機にタッチする。

本機の **N** マーク部分にスマートフォンをタッチします。スマートフォンが振動するまで、タッチし続けてください。



スマートフォンの画面の指示に従って接続を完了してください。

本体上面のLED表示（青色）が点滅から点灯に変わったら、本機と機器が接続された状態になります。

再生時間が上面表示窓に表示されます。

ご注意

- 同時に1台のみ接続できます。
- お使いのスマートフォンによっては、あらかじめNFC機能をオンにする必要があります。詳しくは、お使いのスマートフォンの取扱説明書を確認してください。

ちょっと一言

接続がうまくいかないときは次のことを行ってください。

- スマートフォンでアプリを起動し、本機の **N** マーク部分の上でゆっくり動かす。
- スマートフォンにケースを付けている場合は、ケースをはずす。

Bluetooth接続で音楽を聞く

スマートフォンを操作して音楽の再生を開始します。操作について詳しくは、お使いのスマートフォンの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

スマートフォンを適度な音量にします。それでも音量が小さいときは、本機で音量を調節します。

再生を止める

以下の方法で再生を止めることができます。

- 本機の **N** マーク部分にスマートフォンをタッチする。
- スマートフォンを操作して再生を停止する。
- 本機またはスマートフォンの電源を切る。
- 本機のファンクションを切り換える。
- スマートフォンのBluetooth機能をオフにする。

ネットワークを経由して再生する

Sony Entertainment Network™を楽しむ

インターネット上のさまざまなコンテンツを本機で再生できます。

ちょっと一言

インターネットコンテンツを楽しむには、登録が必要な場合があります。

詳しくは、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.sony.jp/support/home-theater/>

1 本機をネットワークにつなぐ (34ページ)。

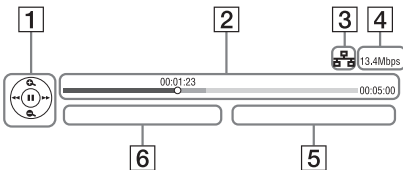
2 SENボタンを押す。

3 ◀/▶/⏮/⏭ボタンを押してインターネット上の動画サイトなどを選び、決定ボタンを押す。

動画再生時のコントロールパネル

タイトルの再生が始まると、コントロールパネルが表示されます。表示される項目は、コンテンツプロバイダーによって異なります。

もう一度表示させるには、画面表示ボタンを押します。



1 ボタン操作

◀/▶/⏮/⏭ボタンまたは決定ボタンを押して、再生操作を行います。

2 再生情報

ステータスバー／再生位置／再生時間
／タイトル全体の再生時間

3 ネットワークの接続状況

📶は有線LAN接続を表します。

4 ネットワーク通信速度

5 次のタイトル名

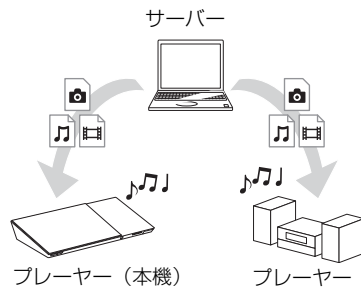
6 再生中のタイトル名

パソコンなどに保存したファイルを本機で見る（ホームネットワーク機能）

他のDLNA対応機器内の動画／音楽／写真をネットワーク経由で再生できます。

本機はプレーヤーまたはレンダラーとして使用できます。

- サーバー：動画／音楽／写真を保存し共有します。
- プレーヤー：サーバーの動画／音楽／写真を再生します。
- レンダラー：サーバーの動画／音楽／写真を再生します。他機器（コントローラー）から操作することができます。
- コントローラー：レンダラーを操作します。

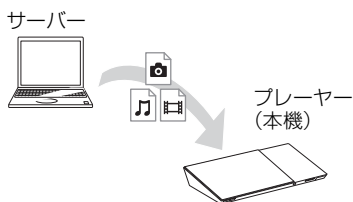


ホームネットワーク機能の準備をする

- 本機をネットワークにつなぎます (34ページ)。
- 他の必要なDLNA対応機器を準備してください。詳しくは機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

本機を経由してDLNAサーバー上のファイルを再生するには (DLNAプレーヤー)

📺 [ビデオ]、🎵 [ミュージック] または 📷 [フォト] からDLNAサーバーアイコンを選び、再生したいファイルを選びます。



他の機器を使って本機を操作しDLNAサーバー上のファイルを再生するには (レンダラー)

本機でDLNAサーバー上のファイルを再生する場合、DLNAコントローラー対応機器 (携帯電話など) を使って再生中の操作ができます。



DLNAコントローラーを使って操作します。DLNAコントローラーに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機のリモコンとDLNAコントローラーを同時に使用しないでください。
- 録画回数制限のあるデジタル放送の番組をホームネットワーク機能を使用して再生するには、他機器側がDTCIP-IP*規格に対応している必要があります。
* DTCIP-IP (Digital Transmission Content Protection over Internet Protocol) とは、著作権保護を目的として開発されたネットワーク規格です。

ちょっと一言

本機はWindows 7 標準のWindows Media® Player 12のリモート再生機能に対応していません。

映像や音楽の情報を探す

インターネット上のGracenote MusicIDデータベースからディスクの映像や音楽の情報を得たり、関連情報を探したりすることができます。

1 本機をネットワークにつなぐ (34ページ)。

2 探したい情報の映像や音楽を含むディスクを本機に入れる。

映像の場合はビデオ検索、音楽の場合はミュージック検索を行います。

3 ⏮/⏭ ボタンを押して、📺 [ビデオ] または 🎵 [ミュージック] を選ぶ。

4 ⏮/⏭ ボタンを押して、🔍 [ビデオ検索] または 🔍 [ミュージック検索] を選ぶ。

映像や音楽の情報 (タイトル、配役、トラック、アーティスト名など)、[再生履歴]、[検索履歴] が表示されません。

- [再生履歴]
最近再生したBD-ROM／DVD-ROM
／音楽CDのタイトルをリスト表示し
ます。情報を得たいタイトルを選び
ます。
- [検索履歴]
[ビデオ検索] [ミュージック検索]
で最近検索した情報をリスト表示し
ます。

詳細な関連情報を探すには

リストから項目を選んで検索用のサービス
を選びます。

TV SideView機能を使う

「TV SideView」はスマートフォンなどの
モバイル機器で本機をリモート操作するた
めの無料アプリです。本機で再生中のディ
スクの詳細情報を見たり、本機を操作する
ためのリモコンとして使ったり、文字入力
のときのソフトウェアキーボードとして使
うことができます。

「TV SideView」を使う前に、「TV
SideView」で使うモバイル機器を登録し
ます。登録のための画面の指示にしたがっ
てください。

ご注意

本機のホームメニューがテレビ画面に表示され
ているときのみ登録可能です。

さまざまなオプ ション

オプションボタンを押すと、さまざまな設
定や再生中の操作ができます。表示される
オプションは、使用状況によって異なります。

共通オプション

項目	できること
【サウンドモード】	サウンドモードの設定を切り換えます（38 ページ）。
【サッカーモード】	サッカーモードを選びます（39 ページ）。
【リピート設定】	リピートモードを設定します。
【3D メニュー】	・ [シミュレーテッド 3D]：2D 映像を 3D に変換するときの効果を調整します。 ・ [3D 奥行き調整]：3D 映像の奥行きを調整します。 ・ [2D 再生]：3D 映像を 2D で再生します。
【再生】 / 【再生停止】	再生を開始または停止します。
【はじめから再生】	タイトルを始めから再生します。
【カテゴリ切換】	「BD/DVD」または「USB」ファンクションのときに、  [ビデオ]、  [ミュージック]、または  [フォト] を切り換えます。この機能は該当するコンテンツがある場合のみ働きます。

📺【ビデオ】のみ

項目	できること
【画音同期調整】	映像と音声とのずれを補正します。音声出力を映像出力より遅らせます（51ページ）。
【3D 出力設定】	3D 映像を自動で出力するか設定します。 ご注意 本体のHDMI（入力1）またはHDMI（入力2）端子から入力された3D映像は、この設定にかかわらず、3D映像で出力されます。
【画質設定】	・【画質モード】：視聴環境の明るさに合わせて画質を設定します。HDMI 接続時は【自動】、[カスタム 1]、[カスタム 2] から選べます。 ・【質感調整】：エッジの先鋭度とディテールを調整します。 ・【超解像】：解像感を向上させます。 ・【スモーキング】：平坦部の階調（表現）をなめらかにすることによって、画面上の擬似輪郭を低減します。 ・【コントラストリマスター】：黒レベル、白レベルを自動的に整え、黒浮きしない、めりはりのある画像にします。 ・【クリアブラック】：映像の黒い部分の表現を調整します。全体の陰影を損なうことなく、艶やかな黒を演出できます。
【再生一時停止】	再生を一時停止します。
【トップメニュー】	BD や DVD のトップメニューを表示します。
【メニュー】 / 【ポップアップ】	BD-ROM のポップアップメニューや DVD のメニューを表示します。

項目	できること
【タイトルサーチ】	BD-ROM や DVD ビデオのタイトルを選んで頭出しします。
【チャプターサーチ】	チャプターを選んで頭出しします。
【音声切換】	BD-ROM や DVD ビデオにトラックが複数の言語で記録されている場合、言語を切り替えます。
【字幕切換】	BD-ROM や DVD ビデオに字幕が複数の言語で記録されている場合、字幕言語を切り替えます。
【映像切換】	BD-ROM や DVD ビデオに他のアングルからの映像が記録されている場合、映像を切り換えます。
【IP コンテンツ NR プロ】	インターネットコンテンツの画質を調整します。
【ビデオ検索】	Gracenote のデータベースを利用して、BD-ROM/ DVD-ROM の情報を表示します。

🎵【ミュージック】のみ

項目	できること
【スライドショーの BGM 登録】	USB メモリー内の音楽ファイルを、スライドショーの BGM に登録します。
【ミュージック検索】	Gracenote のデータベースを利用して、CD（CD-DA）の情報を表示します。

📷【フォト】のみ

項目	できること
【スライドショー】	スライドショーを再生します。
【スライドショーの速さ】	スライドショーの速さを設定します。
【スライドショーの効果】	スライドショーの表示方法を設定します。

項目	できること
【スライドショーのBGM】	・ [切] : BGM が流れません。 ・ [My Music (USB)] : 【スライドショーのBGM登録】で登録した音楽ファイルをBGMに設定します。 ・ [音楽CDから再生] : CD-DAのトラックをBGMに設定します。
【表示切換】	【グリッド表示】と【リスト表示】を切り換えます。
【回転 (左)】	写真を左回りに90度回転させます。
【回転 (右)】	写真を右回りに90度回転させます。
【表示】	選んだ写真を表示します。

「TV」ファンクションの場合

- 1 オプションボタンを押す。**
「AV.SYNC」が本体上面表示窓に表示されます。
- 2 ➡ボタンまたは決定ボタンを押す。**
- 3 ⬆/⬆ボタンを押して、音声と映像のずれを調節し、決定ボタンを押す。**
0 ms～300 msの間で25 msきざみで調節できます。
- 4 オプションボタンを押す。**
オプションメニュー画面が消えます。

音声と映像のずれを調節する

(A/V SYNC)

つないだテレビによっては、音声と映像がずれることがあります。そのようなときは、ずれを調節することができます。選んだファンクションによって調節のしかたが違います。

「BT」または「TV」ファンクション以外の場合

- 1 オプションボタンを押す。**
オプションメニューがテレビ画面に表示されます。
- 2 ⬆/⬆ボタンを押して、[画音同期調整] を選び、決定ボタンを押す。**
- 3 ⬆/➡ボタンを押して、音声と映像のずれを調節し、決定ボタンを押す。**
0 ms～300 msの間で25 msきざみで調節できます。

音声を切り換える

BDやDVDビデオの中には、複数の言語（マルチランゲージ）で音声記録されているものや、複数の音声記録方式（PCM、ドルビーデジタル、MPEGオーディオ、DTSなど）で録音されているものがあります。このようなときは、再生中に音声の言語や音声記録方式を選ぶことができます。また、CD再生中は、左右どちらかのチャンネルの音を左右両方のスピーカーから出すことができます。

再生中に音声切換ボタンを押して音声を選ぶ。

音声の情報がテレビに表示されます。

■ BD／DVDビデオのとき

選べる言語はBD／DVDビデオによって異なります。

4桁の数字が表示されたときは、「言語コード一覧表」（91ページ）を参照してください。同じ言語が2つ以上表示されたときは、音声記録方式（音声チャンネル数など）が異なります。

■ DVD-VRのとき

ディスクに記録されている音声トラックの種類が表示されます。

例：

- [♪ ステレオ]
- [♪ ステレオ（音声1）]
- [♪ ステレオ（音声2）]
- [♪ 主]
- [♪ 副]
- [♪ 主/副]

ご注意

ディスクに1つの音声しか記録されていないときは、[♪ ステレオ（音声1）] や [♪ ステレオ（音声2）] は表示されません。

■ CDのとき

- [♪ ステレオ]：通常のステレオ再生
- [♪ 1/L]：左チャンネルの音（モノラル）
- [♪ 2/R]：右チャンネルの音（モノラル）
- [♪ L+R]：左右チャンネル合わせた音がそれぞれのスピーカーから出力されます。

デジタル放送用の 音声（AAC）を楽しむ

AACとは、BSデジタル放送や地上デジタル放送で採用されている音声方式です。AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。

BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタルケーブル（別売）でつなぎます。

お使いのテレビのHDMI端子がオーディオリターンチャンネル（ARC）機能（30ページ）に対応している場合は、HDMIケーブル経由でAAC音声を聞くことができます。

また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。

ご注意

30ページの接続で、音声ケーブル（アナログ）（別売）での接続では、AAC音声は楽しめません。

2ヶ国語放送の音声を切り換える

AACが2ヶ国語放送の場合、主音声と副音声を切り換えることができます。

音声切換ボタンを押す。

音声切換ボタンを繰り返し押して、本体上面表示窓にお好みの設定を表示させます。（お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。）

- 「MAIN」（主音声）
主音声のみを再生します。
- 「SUB」（副音声）
副音声のみを再生します。
- 「MAIN+SUB」（主+副）
主音声と副音声合成された音声を再生します。

ご注意

2ヶ国語放送でない場合に音声切換ボタンを押すと、本体上面表示窓に「NOT.USE」が表示されます。

ちょっと一言

DVD-R／DVD-RWにVRモードで記録された2ヶ国語放送も、この設定で楽しむことができます。

ラジオを聞く

1 ファンクションボタンを繰り返し押し押して、本体上面表示窓に「FM」を表示させる。

2 放送局を選ぶ。

自動選局

選局+/- ボタンを押し続け、自動選局が始まったら離します。

「オートチューニング中です」がテレビ画面に表示されます。

放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。

自動選局を止める場合は、リモコンのいずれかのボタンを押します。

手動選局

選局+/- ボタンを繰り返し押しします。

3 音量+/- ボタンを押して、音量を調節する。

FM放送の受信状態が良くないときには

FM放送の受信状態が良くないときは、モノラル受信を選びます。ステレオ受信ではありませんが、聞きやすくなります。

1 オプションボタンを押す。

オプションメニューがテレビ画面に表示されます。

2 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ ボタンを押して、「FMモード」を選び、決定ボタンを押す。

3 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ ボタンを押して、「モノラル」を選び、決定ボタンを押す。

- 「ステレオ」：ステレオ受信します。
- 「モノラル」：モノラル受信します。

ちょっと一言

「FMモード」は各プリセットに対して個別に設定できます。

ラジオを消すには

電源ボタンを押します。

放送局を登録する

FM局を20局登録できます。

受信を始める前に、音量を最小にしてください。

1 ファンクションボタンを繰り返し押し押して、本体上面表示窓に「FM」を表示させる。

2 選局+/- ボタンを押し続け、自動選局が始まったら離す。

放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。

3 オプションボタンを押す。

オプションメニューがテレビ画面に表示されます。

4 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ ボタンを押して、「プリセットメモリー」を選び、決定ボタンを押す。

5 $\blacktriangle/\blacktriangledown$ ボタンを押して、プリセット番号を選び、決定ボタンを押す。

6 手順2～5を繰り返して、他の放送局を登録する。

プリセット番号を変えるには

プリセット+/- ボタンを繰り返し押し押して変えたいプリセット番号を選んで、手順3から操作をします。

プリセットした放送局を選ぶ

1 ファンクションボタンを繰り返し押し押して、本体上面表示窓に「FM」を表示させる。

最後に受信した放送局が受信されます。

2 プリセット+/-ボタンを繰り返し押し押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。

プリセット番号と周波数がテレビ画面と本体上面表示窓に表示されます。
ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。

ちょっと一言

- 数字ボタンを押してプリセット番号を選ぶこともできます。
- 画面表示ボタンを押すと、本体上面表示窓の表示が以下のように変わります。
周波数→プリセット番号→デコーディング状態*

*[サウンドエフェクト] が [Dolby Pro Logic]、[DTS Neo:6 Cinema] または [DTS Neo:6 Music] に設定されているときに表示されます。

“ブラビアリンク” とは？

HDMI機器制御機能に対応している製品をHDMIケーブルでつなぐと、下記のような機能を使って操作を簡単に行うことができます。

- 電源オフ連動（58ページ）
- システムオーディオコントロール（58ページ）
- ワンタッチプレイ（58ページ）
- オーディオリターンチャンネル（ARC）（58ページ）

さらに、“ブラビアリンク”対応製品では、ソニー独自の以下の機能も使うことができます。

- 本機のリモコンを使用した音声の切り換え（58ページ）

ご注意

製品により、対応しないものがあります。

“ブラビアリンク”は、HDMI機器制御を搭載したソニーのテレビやブルーレイディスクレコーダー、AVアンプなどが対応しています。

HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

ご注意

- 上記の機能は、他社製品との間でも操作ができる場合がありますが、その動作についての保証はいたしかねます。
- つないだ機器の設定によっては、HDMI機器制御機能が動かないことがあります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク” を使う準備をする

“ブラビアリンク”に対応した機器をHDMIケーブルでつなぎ、つないだ機器の設定をテレビ側で行うと、複数のつないだ機器をひとつのリモコンで簡単に操作をすることができます。

“ブラビアリンク”を使うには、つないだ機器のHDMI機器制御機能を「入」に設定します。HDMI機器制御機能に対応しているソニー製テレビをお使いの場合、テレビのHDMI機器制御機能の設定を行うと、本機やつないだ機器のHDMI機器制御機能も連動して設定されます。

- 1** 本機とテレビやその他の機器がHDMIケーブルでつながれていることを確認する。
- 2** 本機とテレビ、つないだ機器の電源を入れる。
- 3** 本機の映像がテレビに映るように、テレビのHDMI入力を切り換える。

4 テレビのメニュー画面にHDMI機器一覧を表示し、つないだ機器のHDMI機器制御を有効にする。

本機とつないだ機器側のHDMI機器制御機能が自動的に「入」に設定されます。設定が完了すると、表示窓に「DONE」が表示されます。

ご注意

テレビやつないだ機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

「DONE」が表示されないときは

本機とつないだ機器のHDMI機器制御を個別に「入」に設定します。

本機のHDMI機器制御機能のお買い上げ時の設定は「入」です。

- 1 ホームボタンを押す。
ホームメニューがテレビ画面に表示されます。
- 2 /▶ボタンを押して、ホームメニューの  [設定] を選ぶ。
- 3 /▼ボタンを押して、[本体設定] を選び、決定ボタンを押す。
- 4 /▼ボタンを押して、[HDMI設定] を選び、決定ボタンを押す。
- 5 /▼ボタンを押して、[HDMI機器制御] を選び、決定ボタンを押す。
- 6 /▼ボタンを押して、[入] を選び、決定ボタンを押す。
本機のHDMI制御機能が入になります。
- 7 HDMI機器制御機能を使用したい機器のファンクション（「HDMI1」または「HDMI2」）を本機で選ぶ。
- 8 つないだ機器のHDMI機器制御を入にする。
つないだ機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

本機に再生機器を追加したり、再接続するときは

「「ブラビアリンク」を使う準備をする」や「「DONE」が表示されないときは」の手順をもう一度行ってください。

ご注意

- テレビの「HDMI機器制御」によって、つないだ機器のHDMI機器制御を同時に設定できない場合は、つないだ機器のメニューからHDMI機器制御機能を設定してください。
- テレビやつないだ機器の設定については、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

HDMI機器制御機能を「切」にする

“ブラビアリンク”に対応していない機器や、HDMI端子のない機器をつないでいるときなどは、本機のHDMI機器制御機能を「切」に設定します。

- 1 「「DONE」が表示されないときは」の手順1～5を行う。
- 2 /▶ボタンを押して、[切] を選び、決定ボタンを押す。
本機のHDMI制御機能が切になります。

つないだ機器の音声出力を設定する

マルチチャンネルデジタル音声を出力するには、つないだ機器のデジタル音声設定を確認してください。たとえば、ソニーのブルーレイディスクレコーダーでは、[HDMI 音声出力] が [自動] に設定されていることを確認してください。
また本機で、DTS-HDなどのストリームをデコードするには、レコーダーやプレーヤー側で、ストリームを出力するための設定が必要な場合があります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

“ブラビアリンク” を使う

電源オフ連動

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機とつないだ機器の電源も連動して切ることができます。

電源オンについて

前回、本機で音を出していた場合は、テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入ります。

他のつないだ機器の電源を入れるには、個別に操作する必要があります。

テレビのホームメニューから操作できる場合もあります。

ご注意

- 本機で音楽再生中またはラジオを聞いているときは、本機の電源は自動的に切れません。
- つないだ機器の状態によっては、その機器の電源を切ることができない場合があります。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

システムオーディオコントロール

簡単な操作で、テレビや他機器の音声を本機で楽しめます。

システムオーディオコントロールは以下のように働きます。

- 本機の電源を入れると、テレビや他機器の音声は自動的に本機から出力されます。
- テレビや他機器の音声を本機で再生しているときにスピーカー TV↔AUDIOボタンを押すと、テレビのスピーカーから音声を出力します。

- テレビや他機器の音声を本機で再生しているときは、テレビ側の操作で本機の音量を調節したり電源を切ったりすることができます。

ちょっと一言

お使いのテレビによっては、テレビの音量を変えたときと同じように、画面に本機の音量を示す数字が表示されますが、画面の数字と本体上面表示窓の数字が異なることがあります。

ワンタッチプレイ

本機に付属のリモコンの▶再生ボタンを押すと、自動的に本機とテレビの電源が入り、テレビの入力が本機に切り換わります。

本機につないだ他機器でワンタッチプレイをすると、自動的に本機の電源が入り、ファンクションが「HDMI1」または「HDMI2」（ワンタッチプレイを行った機器が接続されている方）に切り換わります。またテレビの入力も本機に切り換わります。

オーディオリターンチャンネル (ARC)

オーディオリターンチャンネル (ARC) 機能に対応したテレビを、HDMIケーブルで本機につなぐと、テレビのデジタル音声信号が本機に伝送されます。その場合、光デジタル音声コードをつなぐ必要はありません。

オーディオリターンチャンネル (ARC) 機能を使用しない場合はテレビと本機を光デジタル音声コードでつなぎ、[オーディオリターンチャンネル (ARC)] を「切」に設定します。

詳しくは、[オーディオリターンチャンネル (ARC)] (74ページ) をご覧ください。

HDMI機器の接続について

- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Color、3Dの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、つないだ機器側の設定をご確認ください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、つないだ機器により制限されることがあります。
- つないだ機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声途切れることがあります。
- つないだ機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI（出力）端子の映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、つないだ機器の仕様をご確認ください。
- 本機はDeep Colorおよび3D伝送に対応しています。
- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、“PlayStation®3”など）と本機をHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。

自動でスピーカーを設定する

〔自動音場補正〕

ソニー独自のD.C.A.C. DX（Digital Cinema Auto Calibration DX（自動音場補正機能））によって自動的に最適なスピーカー設定を実現します。

ご注意

- [自動音場補正] が始めると大きな測定音が出ます。測定中は音量の調整ができません。お子様やご近所へのご配慮をお願いします。
- [自動音場補正] を始める前に、すべてのスピーカーが本機、サラウンドアンプにつながれているかどうか確認してください。

1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 ◀/▶ボタンを押して、ホームメニューの [設定] を選ぶ。

3 ◀/▶ボタンを押して、[音声設定] を選び、決定ボタンを押す。

4 ◀/▶ボタンを押して、[自動音場補正] を選び、決定ボタンを押す。

スピーカー配置を選ぶ画面がテレビ画面に表示されます。

5 ◀/▶ボタンを押して、スピーカーの配置に合わせた設定を選び、決定ボタンを押す。

- [スタンダード]：サラウンドスピーカーを視聴位置の後ろに設置。
- [オールフロント]：すべてのスピーカーを前方に設置。

ご注意

スピーカー配置の設定を変更すると、スピーカー設定の数値が初期設定にリセットされます。

6 本体後面のA.CAL MIC端子に音場測定用マイクをつなぐ。

マイクは耳と同じ高さになるように、またテレビ画面の方向に向けて、市販の台や三脚を使って固定してください。各スピーカーの前面がマイクに向くようにして、スピーカーとマイクの間に障害物などがないようにしてください。

7 $\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ ボタンを押して、[はい]を選び、決定ボタンを押す。

止めるときは「いいえ」を選びます。

8 決定ボタンを押す。

[自動音場補正]を開始します。
自動的にスピーカー設定をします。
測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。

ご注意

- 測定を始める前に、サラウンドアンプの電源が入っているか、またワイヤレス接続が可能な位置に設置されているかどうか確認してください。
- 測定中は本機の操作をしないでください。

9 測定結果を確認する。

スピーカーの距離、レベルがテレビ画面に表示されます。

ご注意

測定が失敗した場合は、テレビ画面の指示にしたがって、[自動音場補正]を再度行ってください。

10 $\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ ボタンを押して、[はい]または「いいえ」を選び、決定ボタンを押す。

■測定結果が問題ないとき

測定マイクを抜き、[はい]を選びます。測定結果が反映されます。

■測定結果に問題があるとき

メッセージにしたがい[はい]を選び、もう一度測定を行います。

スピーカーに関する設定をする

[スピーカー設定]

サラウンドを十分に楽しむために、リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定し、テストトーンを使って、各スピーカーのバランスを調節します。

1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 $\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ ボタンを押して、ホームメニューの [設定] を選ぶ。

3 $\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ ボタンを押して、[音声設定]を選び、決定ボタンを押す。

4 $\blacktriangleleft/\blacktriangleright$ ボタンを押して、[スピーカー設定]を選び、決定ボタンを押す。

スピーカー配置を選ぶ画面がテレビ画面に表示されます。

5 **↔/↔ボタンを押して、スピーカーの配置に合わせた設定を選び、決定ボタンを押す。**

- **[スタンダード]**：サラウンドスピーカーを視聴位置の後ろに設置。
- **[オールフロント]**：すべてのスピーカーを前方に設置。

ご注意

スピーカー配置の設定を変更すると、スピーカー設定の数値が初期設定にリセットされます。

6 **↔/↔/↔ボタンを押して、設定項目を選び、決定ボタンを押す。**

7 **↔/↔ボタンを押して、設定を調節する。**

以下の設定を行ってください。
(お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。)

■ [距離]

スピーカーの位置を変えた場合は、視聴位置からスピーカーまでの距離を変更してください。

0.0 m～7.0 mの範囲で設定できます。

[フロント 左／右] 3.0 m：フロントスピーカーの距離を設定します。

[センター] 3.0 m：センタースピーカーの距離を設定します。

[サラウンド 左／右] 3.0 m：サラウンドスピーカーの距離を設定します。

[サブウーファー] 3.0 m：サブウーファーの距離を設定します。

■ [レベル]

[自動音場補正]を行った後、各スピーカーの音量レベルが気になるときに調整することができます。

－6.0 dB～＋6.0 dBの範囲で設定できます。

[テストトーン] を [入] にすると、設定がしやすくなります。

[フロント 左／右] 0.0 dB：フロントスピーカーのレベルを設定します。

[センター] 0.0 dB：センタースピーカーのレベルを設定します。

[サラウンド 左／右] 0.0 dB：サラウンドスピーカーのレベルを設定します。

[サブウーファー] 0.0 dB：サブウーファーのレベルを設定します。

■ [リロケーション]

サラウンド効果を高めるために、スピーカーの位置を仮想的に補正します。

[入]：[自動音場補正] の測定結果に基づき、スピーカー位置を仮想的に補正した状態で音声聞きます。

[切]：実際のスピーカーの位置で音声を聞きます。

ご注意

- この設定は [自動音場補正] を行った後のみ、反映されます。
- スピーカー配置で [オールフロント] を選んだときは、この機能を選ぶことはできません。

■ [テストトーン]

[レベル] を調整するために、テストトーンを聞くことができます。

[切]：テストトーンは出ません。

[入]：レベル調整中は各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。[スピーカー設定] の項目を調整している間は、調整しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

以下の方法でレベルを調整します。

- 1 [テストトーン] を [入] にする。
- 2 **▲/▼** ボタンを押して、[レベル] を選び、決定ボタンを押す。
- 3 **▲/▼** ボタンを押して、設定したいスピーカーを選び、決定ボタンを押す。
- 4 **◀/▶** ボタンを押して、左または右のスピーカーを選び、**▲/▼** ボタンを押して、レベルを調整する。
- 5 決定ボタンを押す。
- 6 手順3～5を繰り返す。
- 7 戻るボタンを押す。
元の画面に戻ります。
- 8 **▲/▼** ボタンを押して、[テストトーン] を選び、決定ボタンを押す。
- 9 **▲/▼** ボタンを押して、[切] を選び、決定ボタンを押す。

ご注意

テストトーンはHDMI（出力）端子からは出力されません。

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本体の電源を切ることができます。

時間は10分間隔で設定することができます。

スリープボタンを押す。

スリープボタンを押すごとに、設定時間（残り時間）が変わり、本体上面表示窓に表示されます。

タイマーがセットされると、残り時間が5分毎に表示されます。残り時間が2分を切ると、本体上面表示窓に「SLEEP」が点滅します。

設定時間を確認するには

スリープボタンを一度押す。

経過時間を変えるには

スリープボタンを繰り返し押して希望の設定時間に変更する。

本体のボタンを動作しないようにする

(チャイルドロック機能)

子供のいたずらなどによる誤動作をふせぐため、本体のボタン（I/O以外のボタン）を動作しないようにすることができます。

本体の■ボタンを5秒以上押す。

「LOCKED」が本体上面表示窓に表示されます。

チャイルドロック機能が有効になり、本体のボタンがロックされます。（リモコンでの操作は通常どおり行うことができます。）チャイルドロック機能を無効にするには、本体の■ボタンを5秒以上押し続け、本体上面表示窓に「UNLOCK」を表示させます。

ご注意

チャイルドロック機能が有効のときに本体のボタンを押すと、本体上面表示窓に「LOCKED」が点滅します。

スピーカーイルミネーションを楽しむ

スピーカーイルミネーションボタンを押す。

本機の電源が入っているときに、フロントスピーカーとサラウンドスピーカーの下側の部分が点灯します。

スピーカーイルミネーションを消灯させるには、再度スピーカーイルミネーションボタンを押します。

ご注意

「BT」ファンクションを選ぶと、サラウンドスピーカーのイルミネーションは自動的に消灯します。

スタンバイ状態時の消費電力をおさえる

スタンバイ状態時の消費電力をおさえるには、以下の設定をします。

- －[HDMI設定]の[HDMI機器制御]を[切]にする（74ページ）。
- －[高速起動モード]を[切]にする（74ページ）。
- －[ネットワーク設定]の[リモート起動]を[切]にする（76ページ）。

ウェブサイトを開 覧する

1 インターネットブラウザの準備をする。

本機をネットワークにつなぎます（34ページ）。

2 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

3 ◀/▶ボタンを押して、ホームメニューのⓂ[ネットワーク]を選ぶ。

4 ▶/▶ボタンを押して、[インターネットブラウザ]を選び、決定ボタンを押す。

[インターネットブラウザ] 画面がテレビ画面に表示されます。

ご注意

ウェブサイトによっては、本機のブラウザに対応していない場合があります。また、ウェブサイトが正しく表示されない場合があります。

URLを入力するには

オプションメニューの[URL入力]を選びます。ソフトウェアキーボードを使ってURLを入力し、[入力終了]を選んでください。

デフォルトのスタートページを設定するには

設定したいページを表示し、オプションメニューの[スタートページに設定]を選びます。

前のページに戻るには

オプションメニューの[前のページ]を選びます。

[前のページ] を選んでも前のページが表示されない場合は、オプションメニューの[ウィンドウ一覧]を選び、戻るページをリストから選んでください。

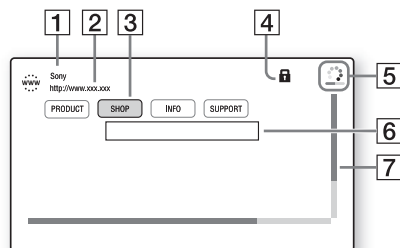
インターネットブラウザを終了するには

ホームボタンを押します。

インターネットブラウザ画面

画面表示ボタンを押すと、ウェブサイト情報を確認できます。

ウェブサイトやページの状況によって、表示される情報は異なります。



1 ページタイトル

2 ページアドレス

3 カーソル

◀/▶/▶ボタンを押して動かします。

見たいリンクにカーソルを合わせ、決定ボタンを押してください。リンク先のウェブサイトが表示されます。

4 SSLアイコン

ウェブサイトがセキュリティで保護された接続を使用している場合に表示されます。

⑤ プログレスバー／ローディングアイコン
ページを読み込んでいたり、ファイルをダウンロード／転送しているときに表示されます。

⑥ テキスト入力フィールド
決定ボタンを押して、オプションメニューの「入力」を選び、ソフトウェアキーボードを表示してください。

⑦ スクロールバー
◀/▶/↶/↷ボタンを押して、表示しているページを上下左右に動かします。

さまざまなオプション

オプションボタンを押すと、さまざまな設定や操作ができます。

表示されるオプションは、使用状況によって異なります。

項目	できること
【ブラウザー設定】	インターネットブラウザを設定します。 • [拡大／縮小]：表示されるコンテンツのサイズを拡大または縮小します。 • [JavaScript の設定]：JavaScript を有効または無効にします。 • [Cookie の設定]：Cookie を許可するかどうかを設定します。 • [SSL の警告表示]：SSL を有効または無効にします。
【ウィンドウ一覧】	現在開いているウェブサイトのウィンドウリストを表示します。前に表示していたウェブサイトのウィンドウを選んで、戻ることができます。
【ブックマーク一覧】	ブックマークリストを表示します。

項目	できること
【URL 入力】	ソフトウェアキーボードが表示されているとき、URL を入力できます。
【前のページ】	前のページに戻ります。
【次のページ】	次のページに進みます。
【読み込み中止】	ページの読み込みを中止します。
【再読み込み】	同じページを再度読み込みます。
【ブックマークに追加】	現在表示しているウェブサイトをブックマークリストに追加します。
【スタートページに設定】	現在表示しているウェブサイトをデフォルトのスタートページに設定します。
【新規ウィンドウで開く】	新規ウィンドウでリンクを開きます。
【文字エンコード指定】	文字エンコードを指定します。
【証明書の表示】	SSL 対応ページから送信されたサーバー証明書を表示します。
【入力】	ウェブサイトを閲覧しているときに文字を入力するためのソフトウェアキーボードを表示します。
【改行】	テキスト入力フィールドの次の行にカーソルを移動します。
【左削除】	テキスト入力中に、カーソルの左側にある文字をひとつ削除します。

ワイヤレスの設定をする

ワイヤレス通信する機器を特定する

【セキュアリンク】

本体とサラウンドアンプをワイヤレスでつなぐときに、セキュアリンク機能を使ってワイヤレス通信する機器を特定することができます。

自宅や近隣で複数のワイヤレスサウンド機器を使用しているときに起こる混線を防ぐことができます。

- 1 ホームボタンを押す。
ホームメニューがテレビ画面に表示されます。
- 2 ◀/▶ボタンを押して、ホームメニューの 【設定】を選ぶ。
- 3 ◀/▶ボタンを押して、[本体設定] を選び、決定ボタンを押す。
- 4 ◀/▶ボタンを押して、[ワイヤレスサウンド接続設定] を選び、決定ボタンを押す。
[ワイヤレスサウンド接続設定] 画面がテレビ画面に表示されます。
- 5 ◀/▶ボタンを押して、[セキュアリンク] を選び、決定ボタンを押す。
- 6 ◀/▶ボタンを押して、[入] を選び、決定ボタンを押す。

- 7 サラウンドアンプ後面のセキュアリンクボタンを押す。

数分以内に次の手順に進んでください。

- 8 ◀/▶ボタンを押して、[開始] を選び、決定ボタンを押す。

元の画面に戻るには、[いいえ] を選びます。

- 9 [セキュアリンクの設定を完了しました。] メッセージが表示されたら、決定ボタンを押す。

サラウンドアンプが本体に接続され、LINK/STANDBY表示が橙色に点灯します。

[セキュアリンクの設定ができませんでした。] メッセージが表示されたら、画面の指示にしたがってください。

セキュアリンク機能をキャンセルするには

本体での操作

手順6で [切] を選びます。

サラウンドアンプでの操作

LINK/STANDBY表示が緑色に点灯または点滅するまで、後面のセキュアリンクボタンを押し続けます。

ワイヤレス通信が不安定なとき

【ワイヤレス周波数設定】

ワイヤレスLANやBluetooth機器など複数のワイヤレス機器をお使いの場合、本機のワイヤレス通信が不安定になることがあります。この場合、[ワイヤレス周波数設定] を設定することで改善することがあります。

- 1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

- 2 **↔**ボタンを押して、ホームメニューの  **【設定】** を選ぶ。
 - 3 **↔**ボタンを押して、**【本体設定】** を選び、決定ボタンを押す。
 - 4 **↔**ボタンを押して、**【ワイヤレスサウンド接続設定】** を選び、決定ボタンを押す。
- [ワイヤレスサウンド接続設定] 画面がテレビ画面に表示されます。
- 5 **↔**ボタンを押して、**【ワイヤレス周波数設定】** を選び、決定ボタンを押す。
 - 6 **↔**ボタンを押して、設定を選び、決定ボタンを押す。

- **【自動】**：通常はこの設定にします。本機は自動的にワイヤレス通信に最適な周波数を選びます。
- **【1】、【2】、【3】**：ワイヤレス通信に固定のチャンネルを選びます。より通信が安定する周波数を選んでください。

ご注意

他機器のワイヤレス通信の周波数を変えることで、本機のワイヤレス通信が安定することもあります。詳しくは、他ワイヤレス機器の取扱説明書をご覧ください。

設定メニューを使う

画像や音声などのさまざまな設定をおこなうことができます。
お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。

ご注意

ディスクに保存されている再生設定は、設定メニューの設定より優先されます。そのため、いくつかの設定は反映されないこともあります。

1 ホームボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 左/右ボタンを押して、ホームメニューの [設定] を選ぶ。

3 左/右ボタンを押して、設定カテゴリーのアイコンを選び、決定ボタンを押す。

アイコン	説明
	【ネットワークアップデート】（69ページ） ネットワークに接続して、本機のソフトウェアを最新の状態にアップデートします。
	【映像設定】（69ページ） テレビの種類によって映像の設定をします。
	【音声設定】（71ページ） 接続端子によって音声の設定をします。
	【BD/DVD視聴設定】（72ページ） BD/DVD再生のための詳細設定をします。

アイコン	説明
	【視聴年齢制限設定】（72ページ） 視聴年齢制限の詳細設定をします。
	【ミュージック設定】（73ページ） スーパーオーディオCD再生のための詳細設定をします。
	【本体設定】（74ページ） 本体に関する設定をします。
	【外部入力設定】（75ページ） 各外部入力に対してスキップ設定をします。
	【通信設定】（75ページ） インターネットとネットワークの詳細設定をします。
	【かんたんネットワーク設定】（76ページ） 基本的なネットワーク設定をするために「かんたんネットワーク設定」を開始します。
	【設定初期化】（76ページ） 本体の設定を初期化します。

ネットワークに接続して、本機のソフトウェアを最新の状態にアップデートします。

アップデートの情報については、以下のホームページをご確認ください。

<http://www.sony.jp/support/home-theater/>

アップデート中は本体上面表示窓に「UPDATE」が表示されます。アップデートが終了すると、自動的に本機の電源が切れます。

アップデート中は本機の電源を入／切したり、本機やテレビの操作をしないでください。アップデート終了までお待ちください。

[自動]：通常はこの設定にします。

[切]：すべての映像を2Dで表示するとき、この設定を選びます。

本体のHDMI（入力1）またはHDMI（入力2）端子から入力された3D映像は、この設定にかかわらず3D映像で出力されます。

お使いの3D対応テレビの画面サイズを設定します。

本体のHDMI（入力1）またはHDMI（入力2）端子から入力された3D映像には、この設定は反映されません。

[16:9]：ワイド画面のテレビまたはワイドモード機能が搭載されているテレビとつながるとき、この設定を選びます。

[4:3]：画面サイズが4：3でワイドモード機能が搭載されていないテレビとつながるとき、この設定を選びます。

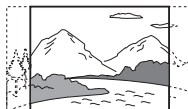
[フル]：ワイドモード機能が搭載されているテレビとつながるとき、この設定を選んでください。ワイドテレビでも4：3映像を常に16：9で表示します。

[ノーマル]：映像の横縦比は維持したまま、映像サイズをテレビの画面サイズに合わせて変更します。

[レターボックス]：ワイド映像を横長のまま表示し、画面の上下は黒く表示します。



[パンスカン]：ワイド映像の左右を自動的にカットしてテレビ画面全体に表示します。



[自動]：通常はこの設定にします。ビデオ素材とフィルム素材の違いを本機が検出し、自動で素材に合わせた変換方法に切り換えます。

[ビデオ]：記録されている映像素材にかかわらず、常にビデオ素材用の変換方法で映像を変換します。

■ 【出力映像解像度設定】

【自動】：接続されたテレビや他機器の解像度に合わせた解像度で出力します。

【オリジナル解像度】：ディスクに記録された解像度で出力します。（解像度がSD解像度より低い場合、SD解像度にして出力されます）

[480i]、[480p]、[720p]、[1080i]、[1080p]：選んだ解像度で出力します。

■ 【BD-ROM 24p出力】

【自動】：1080/24p映像に対応しているテレビとHDMI接続し、[出力映像解像度設定]を[自動]または[1080p]に設定しているとき、24p映像を出力します。

【入】：テレビが1080/24p映像対応のときを選びます。

【切】：テレビが1080/24p映像に対応していないときを選びます。

■ 【DVD-ROM 24p出力】

【自動】：1080/24p映像に対応しているテレビとHDMI接続し、[出力映像解像度設定]を[自動]または[1080p]に設定しているとき、24p映像を出力します。

【切】：テレビが1080/24p映像に対応していないときを選びます。

■ 【4K出力】

【自動1】：ソニー製4K映像対応機器と接続しているときは、ビデオ再生では2K映像（1920×1080）、写真再生では4K映像を出力します。（ソニー製4K映像対応機器側で、2K映像を4K映像にアップスケーリングします。）

ソニー製以外の4K映像対応機器と接続しているときは、BD/DVD-ROMの24pコンテンツ再生または写真再生で4K映像を出力します。

この機能は、3D映像のときは働きません。

【自動2】：4K/24p対応機器を接続し、[BD-ROM 24p出力] または [DVD-ROM

24p出力] を正しく設定しているときは、自動的に4K/24p映像を出力します。また、2D写真を4K/24p映像で出力します。
【切】：この機能をオフにします。

ご注意

【自動1】 を選んでいるときに、ソニー製機器を検出できない場合は、[自動2] と同じ設定になります。

■ 【HDMI映像出力フォーマット】

【自動】：他機器の種類を自動的に検出し、それに適合するカラー設定をします。

【YCbCr (4:2:2)】：YCbCrを4:2:2の比率で色変換を行います。

【YCbCr (4:4:4)】：YCbCrを4:4:4の比率で色変換を行います。

【RGB】：HDCP対応のDVI端子のある機器と接続するときに選びます。

■ 【HDMI Deep Color出力】

【自動】：通常はこの設定にします。

[16bit]、[12bit]、[10bit]：テレビがDeep Color機能に対応しているときは、16bit／12bit／10bit映像を出力します。

【切】：映像が安定しないときや色が不自然なときを選びます。

■ 【SBM】

【入】：HDMI（出力）端子から出力される映像信号の階調をなめらかに表現できます。

【切】：映像が乱れたときや色が不自然なときを選びます。

■ 【一時停止モード】（BD/DVDビデオ、DVD-R、DVD-RWのみ）

【自動】：通常はこの設定にします。動きの大きい被写体の映像がぶれずに表示されません。

【フレーム】：動きの少ない被写体の映像が高い解像度で表示されます。

🔊 【音声設定】

■ 【BD音声MIX設定】

【入】：セカンダリーオーディオ（映画の解説など）、インタラクティブオーディオ（効果音など）が含まれるBDを再生する場合、それらをミキシングして出力します。

【切】：セカンダリーオーディオ、インタラクティブオーディオが含まれるBDを再生する場合、それらをミキシングせずにプライマリオーディオのみを出力します。

■ 【オーディオDRC】

音声のダイナミックレンジを圧縮することができます。

【自動】：ディスクによって定められたダイナミックレンジで再生します（BD-ROMのみ）。

【入】：レコーディングエンジニアが意図したダイナミックレンジで再生します。

【切】：圧縮しません。

■ 【入力レベル抑制設定 — AUDIO】

オーディオ（オーディオ入力 左/右）端子につないでいる機器の音声が入力レベルを小さくして歪みを防ぐことができます。

【入】：入力レベルを小さくします。本機からの出力は小さくなります。

【切】：入力レベルはそのままとなります。

■ 【音声出力】

本機の音声出力先を選ぶことができます。

【スピーカー】：マルチチャンネル音声を本機のスピーカーからのみ出力します。

【スピーカー+HDMI】：マルチチャンネル音声を本機のスピーカーから、2チャンネルリニアPCM音声をHDMI（出力）端子から出力します。

【HDMI】：HDMI（出力）端子からのみ出力します。音声フォーマットはつないだ機器によって異なります。

ご注意

- **【HDMI機器制御】** を **【入】** に設定しているときは（74ページ）、この設定は自動的に **【スピーカー+HDMI】** に設定され、設定を変えることはできません。
- **【TV】** ファンクションを選んでいるときは **【音声出力】** を **【HDMI】** に設定しても2チャンネルリニアPCM音声が出力されます。

■ 【サウンドエフェクト】

サウンドモード（38ページ）などのサウンドエフェクトを有効／無効にすることができます。2チャンネル音声を再生しているときは、**【Dolby Pro Logic】**、**【DTS Neo:6 Cinema】**、**【DTS Neo:6 Music】** のサラウンドをシミュレートするエフェクトを選ぶことができます。

【サウンドモード入】：サウンドモード（38ページ）やサッカーモード（39ページ）のエフェクトを有効にします。

【Dolby Pro Logic】：2チャンネルの音声をサラウンド音声にシミュレートして、本機のすべてのスピーカー（5.1チャンネル）から出力します。（ドルビーサラウンド（プロロジック）デコーディング）

【DTS Neo:6 Cinema】 ／ **【DTS Neo:6 Music】**：2チャンネルの音声をサラウンド音声にシミュレートして、マルチチャンネル音声とします。（**【DTS Neo:6 Cinema】**（映画向け）／**【DTS Neo:6 Music】**（音楽向け）デコーディング）

【2ch Stereo】：音声をフロント左／右スピーカー、サブウーファーからのみ出力します。マルチチャンネル音声のときは、2チャンネルにダウンミックスして出力します。

【切】：サウンドエフェクトを無効にします。レコーディングされたままの音声を聞くことができます。

■ 【スピーカー設定】

サラウンドを十分に楽しむために、各スピーカーの設定をします。詳しくは「スピーカーに関する設定をする」(60ページ)をご覧ください。

■ 【自動音場補正】

自動的に最適なサラウンドサウンドを設定します。詳しくは「自動でスピーカーを設定する」(59ページ)をご覧ください。

■ 【Bluetooth AUDIO — AAC】

AAC音声を有効／無効にすることができます。

[入] : Bluetooth機器がAAC対応のときは、AAC音声を出力します。

[切] : SBC音声を出力します。

ご注意

[入] の設定で再生に問題が生じた場合は [切] に設定してください。

【BD／DVD視聴設定】

■ 【BD／DVDメニュー言語】

BD-ROMやDVDビデオのメニューに表示する言語を設定します。

[言語コード指定] を選んだときは、言語コードを入力する画面が表示されます。「言語コード一覧表」(91ページ)を参照して、言語コードを入力してください。

■ 【音声言語】

BD-ROM やDVD ビデオ再生時の音声の言語を設定します。

[オリジナル] を選ぶとディスクに記録されている優先言語が選ばれます。

[言語コード指定] を選んだときは、言語コードを入力する画面が表示されます。「言語コード一覧表」(91ページ)を参照して、言語コードを入力してください。

■ 【字幕言語】

BD-ROM やDVD ビデオに記録されている字幕の言語を設定します。

[言語コード指定] を選んだときは、言語コードを入力する画面が表示されます。「言語コード一覧表」(91ページ)を参照して、言語コードを入力してください。

■ 【BDハイブリッドディスク再生層】

[BD] : BD層を再生します。

[DVD／CD] : DVD層またはCD層を再生します。

■ 【BDインターネット接続】

[許可する] : 通常はこの設定にします。

[許可しない] : インターネット接続を禁止します。

【視聴年齢制限設定】

■ 【暗証番号設定】

視聴制限のための暗証番号を設定または変更できます。暗証番号を設定すると、視聴制限があるBD-ROM、DVDビデオ、およびインターネットビデオの視聴や再生を制限できます。必要に応じて、BD-ROM、DVDビデオ、およびインターネットビデオに、違う制限レベルを設定できます。

■【視聴年齢制限使用地域】

BD-ROM、DVDビデオ、またはインターネットビデオには、住んでいる国や地域によって、シーンの視聴を制限できるものがあります。制限されたシーンをカットしたり、別のシーンに差し換えて再生します。画面の指示にしたがって、4桁の暗証番号を入力してください。

■【BD視聴年齢制限】

BD-ROMには、見る人の年齢によって、シーンの視聴を制限できるものがあります。制限されたシーンをカットしたり、別のシーンに差し換えて再生します。画面の指示にしたがって、4桁の暗証番号を入力してください。

■【DVD視聴年齢制限】

DVDビデオには、見る人の年齢によって、シーンの視聴を制限できるものがあります。制限されたシーンをカットしたり、別のシーンに差し換えて再生します。画面の指示にしたがって、4桁の暗証番号を入力してください。

■【インターネットビデオ利用制限】

[入]：インターネットビデオの利用を制限します。インターネットビデオを利用するには、4桁の暗証番号を入力する必要があります。

[切]：インターネットビデオの利用を制限しません。

■【インターネットビデオ視聴年齢制限】

インターネットビデオには、見る人の年齢によって、シーンの視聴を制限できるものがあります。制限されたシーンをカットしたり、別のシーンに差し換えて再生しま

す。画面の指示にしたがって、4桁の暗証番号を入力してください。

■【インターネットビデオ Unrated】

[許可する]：視聴年齢制限がないインターネットビデオの再生を許可します。

[許可しない]：視聴年齢制限がないインターネットビデオの再生を禁止します。

■【インターネットフィルタリング設定】

フィルタリングサービスの申し込みと設定をします。

ご家庭で安心してインターネットを利用できるように、特定のカテゴリのコンテンツの閲覧を制限することができます。

🎵【ミュージック設定】

■【Super Audio CD再生層】

[Super Audio CD]：スーパーオーディオCD層を再生します。

[CD]：CD層を再生します。

■【Super Audio CD再生チャンネル】

[DSD 2ch]：2チャンネルエリアを再生します。

[DSD マルチ]：マルチチャンネルエリアを再生します。

【本体設定】

■ **【ワイヤレスサウンド接続設定】**

ワイヤレス機能の詳細設定をします。詳しくは「ワイヤレスの設定をする」(66ページ)をご覧ください。

ワイヤレスの通信状態を確認することもできます。ワイヤレス機能が有効なときは、[現在の接続情報] に [成功] が表示されます。

■ **【イルミネーション設定】**

[入]：本体上面表示窓、LED表示やソフトタッチボタンが常に点灯します。

[自動]：本機を10秒間操作しないと、本体上面表示窓、LED表示やソフトタッチボタンが自動的に消灯します。

ご注意

[自動] に設定している場合、再生中は▶ボタンのみ点灯します。

■ **【HDMI設定】**

[HDMI機器制御]

[入]：[HDMI機器制御] 機能を有効にします。HDMIケーブルでつながれた機器を相互に操作することができます。

[切]：[HDMI機器制御] 機能を無効にします。

[オーディオリターンチャンネル (ARC)]
本機とオーディオリターンチャンネル機能対応テレビのHDMI入力端子をつないで、[HDMI機器制御] を [入] に設定したときに機能します。

[自動]：テレビのデジタル音声をHDMIケーブルを経由して自動的に入力します。

[切]：オーディオリターンチャンネル機能をオフにします。

■ **【高速起動モード】**

[入]：スタンバイ状態からの起動時間を短くします。本機の電源入時にすぐに本機を使うことができます。

[切]：お買い上げ時に設定されています。

■ **【省エネモード】**

[入]：音量が小さいときに、消費電力を抑えることができます。

[切]：通常の状態です。音量+／-ボタンで調節した音量で出力します。

■ **【自動電源オフ】**

[入]：何も操作されないまま30分以上が経過すると、電源が自動的に切れます。

[切]：電源は自動的に切れません。

■ **【自動画面表示】**

[入]：再生中に、タイトル、画面のモード、音声などを変えたときに、自動的に情報をテレビ画面に表示します。

[切]：画面表示ボタンを押したときのみ、情報をテレビ画面に表示します。

■ **【スクリーンセーバー】**

[入]：スクリーンセーバー機能を有効にします。

[切]：スクリーンセーバー機能を無効にします。

■ **【ソフトウェアアップデート通知】**

[入]：本機のソフトウェア最新バージョン情報を通知します (69ページ)。

[切]：通知しません。

■ [Gracenote設定]

[自動]：ディスクの再生を停止したとき、自動でディスク情報をダウンロードします。機能を有効にするには、ネットワークにつないでいる必要があります。

[手動]：[ビデオ検索] または [ミュージック検索] が選ばれたとき、ディスク情報をダウンロードします。

■ [本体情報]

本機のソフトウェアバージョンと、MACアドレスを確認できます。

■ [ソフトウェアライセンス]

ソフトウェア使用許諾契約を表示します。

外部入力設定

ファンクションを選ぶときに、不要な外部入力をスキップすることができます。

■ [HDMI1] / [HDMI2] / [TV] / [Bluetooth AUDIO] / [AUDIO]

[スキップしない]：ファンクションボタンを押してファンクションを選ぶとき、選んだファンクションをスキップしません。

[スキップする]：ファンクションボタンを押してファンクションを選ぶとき、選んだファンクションをスキップします。

通信設定

■ [ネットワーク設定]

あらかじめ本機をネットワークにつなぎます。詳しくは、「手順3：ネットワーク接続の準備」(34ページ)をご覧ください。

ちょっと一言

詳しくは、以下のホームページの「Q&A」をご覧ください。

<http://www.sony.jp/support/home-theater/>

■ [ネットワークの設定確認]

現在のネットワークの接続状態を表示します。

■ [ネットワーク接続診断]

ネットワークに正しくつながっているか、接続診断をします。

■ [接続サーバー設定]

接続されているDLNAサーバーを表示するかどうか設定します。

■ [レンダラー設定]

[自動アクセス許可]：新しく検出されたDLNAコントローラー対応機器による自動アクセスを許可するかどうか設定します。

[スマートセレクト]：ソニー製DLNAコントローラーが、本機を操作機器とするために赤外線を使って認識するようにします。この機能の入/切を設定できます。

[レンダラー名]：ネットワーク上にある他のDLNA機器が一覧表示される本機の名前を表示します。

■ 【レンダーアクセス制御設定】

DLNAコントローラーからコマンドを受け
るかどうか設定します。

■ 【登録済モバイル機器リスト】

登録されたモバイル機器のリストを表示し
ます。

■ 【リモート起動】

[入]：ネットワークにつながっているモバ
イル機器を使って本機の電源を入れること
ができます。

[切]：設定を解除します。

【かんたんネット ワーク設定】

【かんたんネットワーク設定】を選び、
ネットワークの設定を順に行います。画面
の指示にしたがってください。

【設定初期化】

■ 【お買い上げ時の状態に設定】

各設定ごとにお買い上げ時の設定に戻しま
す。選んだ設定のすべての項目がお買い上
げ時の設定に戻るので、ご注意ください。

■ 【個人情報の初期化】

本機に保存された個人情報を消去します。

ディスクの取り扱い上のご注意

- 再生面に手を触れないように持ちます。
- 直射日光が当る所など温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。
- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- 柔かい布でディスクの中心から外の方へ軽く拭きます。汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔かい布で拭いた後、さらに乾いた柔かい布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- ディスクにラベル印刷した場合は、印刷が乾いてから再生してください。
- 次のようなディスクを使用すると本機の故障の原因となることがあります。
 - 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型、星型など）をしたディスク
 - 紙やシールの貼られたディスク
 - セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした跡のあるディスク
- ディスク読み取り面の傷を取るために磨いたり削ったりしないでください。



故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。サウンド機能に問題がある場合は、本システム全体（本体とサウンドアンプ）をお持ちください。

本体の操作

電源が入らない。

→ 電源コードがしっかり差し込まれているかどうか確認してください。

リモコンで操作できない。

→ リモコンと本体との距離を近づけて操作してください。

→ リモコンの電池が消耗していないか確認してください。

本体の▲ボタンを押してもスライドドアが開かない。

→ 以下を試してください。

- ① 本体の▶ボタンと▲ボタンを5秒以上押し続け、スライドドアを開ける。
- ② ディスクを取り出す。
- ③ 電源コードを抜いて、数分後につなぎ直す。

本機が正常に作動しない。

→ 電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源を入れてください。

つないだ機器の映像／音声がテレビに出ない。

→ 本体の電源を入れてください。

メッセージ

テレビ画面に「ネットワーク上に新しいソフトウェアバージョンが見つかりました。[ネットワークアップデート]からアップデートを行ってください。」と表示される。

- [ネットワークアップデート] (69ページ) を行って、最新のソフトウェアに更新してください。

本体上面表示窓に「PRTECT」、
「PUSH」、
「POWER」が交互に表示される。

- I/II (電源) ボタンを押して電源を切り、「STBY」が消えたら以下を確認してください。
- スピーカーコードがショートしていないか？
 - 付属のスピーカーを使っているか？
 - 本体の通気孔がふさがれていないか？
- 上記の項目を点検し、電源を入れてください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

本体上面表示窓に「LOCKED」と表示される。

- チャイルドロック機能をオフにしてください (63ページ)。

本体上面表示窓に「D. LOCK」と表示される。

- お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

本体上面表示窓に「Exxxx」(xは数字)と表示される。

- お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお

問い合わせください。そのときは、表示された数字をお知らせください。

テレビ画面全体に△が表示される。

- お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

サウンドモード+／-ボタン、サッカーモードボタン、またはMUSIC EQボタンを押したときに、本体上面表示窓に「NOT.USE」と表示される。

- [サウンドエフェクト] が [サウンドモード入] 以外に設定されているときは、サウンドモード、サッカーモード、またはMUSIC EQは設定変更できません。[音声設定] の [サウンドエフェクト] を [サウンドモード入] に設定してください (71ページ)。
- 「BT」ファクションのときは、[サウンドエフェクト] が自動的に [2ch Stereo] に設定され、サウンドモード、サッカーモード、MUSIC EQの変更ができなくなります。

映像

映像が出ない、正しく出力されない。

- 本機の映像出力方法が正しいかどうか確認してください (30ページ)。
- 本体の▶ボタンとVOL-ボタンを5秒以上押し続け、本機の映像出力の解像度を最低に戻してください。
- BD-ROMを再生しているときは、[映像設定] の [BD-ROM 24p出力] の設定が正しいかどうか確認してください (70ページ)。
- 「TV」ファクションを選んだときは、テレビのリモコンでご覧になりたいチャンネルを選んでください。

HDMI接続時に映像が出ない。

- HDMIでつなぐ場合、HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) に対応していない機器に本機をつないでいないか確認してください (本体上面表示窓に「HDMI」が点灯していない) (18ページ)。

HDMI (入力1) 端子またはHDMI (入力2) 端子からの3D映像がテレビ画面に表示されない。

- テレビや映像機器が3D映像対応であるか確認してください。

暗い部分が暗すぎる／明るい部分が明るすぎる。

- [画質モード] を [自動] (初期値) に設定してください (50ページ)。

映像が乱れる。

- ディスクが汚れていないか、または歪んでいないか確認してください。
- 本機の映像出力をその他の機器を経由してテレビにつないでいると、一部のBD/DVDプログラムに使用されているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性があります。本機をテレビに直接つないでも解決しないときは、他の入力端子を試してください。

テレビ全体に表示されない。

- [映像設定] の [テレビタイプ] の設定を確認してください (69ページ)。
- ディスクに記録されている映像の縦横比が固定されていないか確認してください。

テレビ画面に色むらが起きる。

- ブラウン管タイプのテレビやプロジェクターといっしょに使用する場合は約30 cm以上スピーカーと離してください。

- それでも色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。
- スピーカーの近くに磁気を発生するものがないように注意してください。スピーカーとの相互作用により、色むらを起す場合があります。
磁気を発生するもの：ラック、置き台の扉に装着された磁石、健康器具、玩具などに使われている磁石など。

音声

音が出ない。

- スピーカーコードが本体にしっかり差し込まれているか確認してください。
- スピーカーの設定を確認してください (60ページ)。

HDMI (入力1) 端子またはHDMI (入力2) 端子につないだ機器のスーパーオーディオCDの音が出ない。

- 本機のHDMI (入力1) 端子またはHDMI (入力2) 端子は、コピープロテクトが含まれる音声フォーマットは受け付けません。スーパーオーディオCDの音を聞く場合は、本機のオーディオ (オーディオ入力 左/右) 端子につないでください。

オーディオリターンチャンネル機能を使って、本機のHDMI (出力) 端子につないだテレビの音が出ない。

- [本体設定] にある [HDMI設定] の [HDMI機器制御] を [入] に設定し、[オーディオリターンチャンネル] を [自動] に設定してください (74ページ)。
- テレビがオーディオリターンチャンネル機能に対応しているかどうか確認してください。
対応していない場合は、光デジタルケーブル (別売)、または音声ケーブル

(別売)で本機とテレビをつないでください (30ページ)。

- HDMIケーブルが、テレビのオーディオリターンチャンネル対応の端子につながれているかどうか確認してください。

外部チューナーなどをつないでいるとき、テレビ番組の音声为正しく出力されない。

- [本体設定]にある[HDMI設定]の[オーディオリターンチャンネル]を[切]に設定してください (74ページ)。
- 接続を確認してください (31ページ)。

ハム音またはノイズがひどい。

- テレビからオーディオ機器を離して設置してください。
- ディスクが汚れていないか、または歪んでいないか確認してください。

CD再生時、ステレオ効果がない。

- 音声切換ボタンを押して、ステレオ音声を選んでください (52ページ)。

Bluetoothのペアリングをしたら、テレビの音が出なくなった。

- ファンクションが「BT」に切り換わりました。本体上面表示窓の表示が「TV」(音声ケーブルをつないで本機でテレビの音声を聞く場合は「AUDIO」)になるまでリモコンのファンクションボタンを繰り返し押してください。

センタースピーカーからしか音が出ない。

- ディスクによってはセンタースピーカーからしか音が出ないものもあります。

サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない。

- スピーカーの接続と設定を確認してください (28、60ページ)。

- サウンドモード設定を確認してください (38ページ)。

- ソースによってはソフトの音声効果上、サラウンドスピーカーの音が小さく記録されているものがあります。

- [サウンドモード]を[Auto]に設定してください (38ページ)。

- Bluetooth使用時はサラウンドの音声は出力されません。

オーディオ(オーディオ入力 左/右)端子につないでいる機器の音声が歪む。

- [入力レベル抑制設定 — AUDIO]を[入]に設定し、音声入力レベルを小さくして歪みを防いでください (71ページ)。

急に大きな音が出る。

- 本機のデモンストレーションが開始した可能性があります。音量ーボタンを押して音量を小さくする、または■ボタンを押してデモンストレーションを止めてください。

ワイヤレス音声

ワイヤレス通信ができない、またはサラウンドスピーカーから音が出ない。

- 「BT」ファンクションのときは、自動的にワイヤレス通信がオフになります。
- サラウンドアンプのLINK/STANDBY表示を確認してください。

・消灯

ーサラウンドアンプの電源コードがしっかり差し込まれているかどうか確認してください。

ーサラウンドアンプのI/O(電源)ボタンを押して、サラウンドアンプの電源を入れてください。

・赤色で点滅

ーサラウンドアンプのI/O(電源)ボタンを押して、サラウンドアンプの

電源を切り、以下を確認してください。

① スピーカーコードがショートしていないか？

② 通気孔がふさがれていないか？
上記の項目を点検し、サラウンドアンプの電源を入れてください。

それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

- 緑色または橙色でゆっくり点滅、または赤色で点灯
 - －[セキュアリンク] の設定を確認してください（66ページ）。
 - －ワイヤレス通信が弱いときは、LINK/STANDBY表示が緑色または橙色に点灯するようにサラウンドアンプを移動してください。
 - －本機を他のワイヤレス機器から離してください。
 - －他のワイヤレス機器の使用を止めてください。
- 緑色または橙色で点灯
 - －スピーカーの接続と設定を確認してください（28、60ページ）。

サラウンドスピーカーから雑音が聞こえたり、音とびがする。

- ワイヤレス通信が不安定なときは、[ワイヤレスサウンド接続設定] の [ワイヤレス周波数設定] を変えてください（66ページ）。
- 本体とサラウンドアンプが近くなるように設置してください。
- 本体やサラウンドアンプを、周りが囲まれている棚、金属製の棚、またはテーブルの下などに設置しないでください。

ラジオ

選局できない。

- アンテナがしっかりつながれているかどうか確認してください。必要に応じて、アンテナの向きを調整したり、外部アンテナを使用してください。
- 放送局の電波が弱いときは（自動選局時）、手動選局で選局してください。

再生

再生が始まらない。

- BDやDVDの地域番号（リージョンコード）が本機で再生できる番号か確認してください。
- 結露が起きている場合があります。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約30分放置し、再び電源を入れなおしてから再生を始めてください。
- 他機で録画されたディスクを再生するときは、正しくファイナライズされているか確認してください（84ページ）。

ファイル名が正しく表示されない。

- 本機で表示できる文字はISO 8859-1準拠のフォーマットの文字のみです。それ以外のフォーマットの文字は違って表示されることがあります。
- 書き込み用ソフトウェアによっては、入力された文字が違って表示されることがあります。

再生がディスクの最初から始まらない。

- オプションボタンを押して、[はじめから再生] を選んでください。

再生が前回停止した位置から始まらない。

- 以下の場合、ディスクによってはつぎ再生が解除されます。
- スライドドアを開けたとき
 - USB機器を取りはずしたとき
 - ほかのコンテンツを再生したとき
 - 本機の電源を切ったとき

音声や字幕の言語、またはアングルを変更できない。

- BD/DVDのメニューで操作してください。
- 再生しているBD/DVDに複数の音声や字幕、またはアングルが記録されていない場合があります。

BD-ROMのスペシャルコンテンツなどの再生ができない。

- 以下を試してください。
- ① ディスクを取り出す。
 - ② 本機の電源を切る。
 - ③ USBメモリーを抜いて、つなぎ直す(43ページ)。
 - ④ 本機の電源を入れる。
 - ⑤ BONUSVIEWやBD-LIVE対応のBD-ROMを入れる。

 [ビデオ] /  [ミュージック] /  [フォト] のフォルダで再生できない。

- 再生できないファンクションの場合があります。ファンクションを切り換えてください。

USB機器

USB機器が認識されない。

- 以下を試してください。
- ① 本機の電源を切る。
 - ② USB機器を抜いて、つなぎ直す。
 - ③ 本機の電源を入れる。
- USB機器が  (USB) 端子にしっかりつながれているかどうか確認してください。
- USB機器やUSBケーブルが破損していないか確認してください。
- USB機器がオンになっているかどうか確認してください。
- USB機器がハブを経由して本機とつながっている場合は、USB機器をハブからはずして、本機に直接つないでください。

SEN

画質／音質が良くない、または早い動きや暗いシーンのときに、詳細が省かれて表示される。

- プロバイダーによっては画質／音質が下がることがあります。
- 利用するネットワークの回線速度を変えることによって、画質／音質が上がることもあります。
- 標準画質では2.5 Mbps、HD画質では10 Mbps以上をおすすめします。
- 音声が入っていない映像もあります。

映像が小さい。

-  ボタンを使って大きくしてください。

HDMI機器制御（ブラビアリンク）

〔HDMI機器制御〕機能が働かない（ブラビアリンク）。

- 〔HDMI機器制御〕が〔入〕になっているかどうか確認してください（74ページ）。
- HDMI接続を変更したときは、本機の電源を切り、もう一度電源を入れてください。
- 停電があったときは、〔HDMI機器制御〕を一度〔切〕にし、その後〔入〕に再設定してください（74ページ）。
- 以下を確認し、他機器の取扱説明書も合わせて確認してください。
 - 接続機器が〔HDMI機器制御〕機能に対応している。
 - 接続機器の〔HDMI機器制御〕機能の設定が正しい。

ネットワーク接続

ネットワークにつながらない。

- ネットワークの接続（34ページ）と設定（75ページ）を確認してください。

Bluetooth機器

ペアリングできない。

- 本機とBluetooth搭載機器をなるべく近付けてからペアリングを行ってください。
- 他のBluetooth搭載機器が本機の近くにあるとペアリングができないことがあります。この場合は、他のBluetooth搭載機器の電源を切ってください。
- Bluetooth搭載機器から本機の設定を削除し、再度ペアリングを行ってください（43ページ）。

Bluetooth接続ができない。

- ペアリング情報が消えている場合があります。再度ペアリングを行ってください（43ページ）。

音が出ない。

- 本機とBluetooth搭載機器の距離が離れすぎていないか、無線LANや他の2.4GHz無線機器や電子レンジなどの影響を受けていないか確認してください。
- 本機とBluetooth搭載機器を正しくBluetooth接続しているかどうか確認してください。
- 本機とBluetooth搭載機器を再度ペアリングしてください。
- 金属製の物質から離してください。
- 本機のファンクションで「BT」が選ばれているかどうか確認してください。
- Bluetooth搭載機器で音量を調節してください。それでも音量が小さいときは、本機で音量を調節してください。

音が途切れたりゆれる、接続が切れる。

- 本機とBluetooth搭載機器をできるだけ近づけてください。
- 本機とBluetooth搭載機器との間に障害物がある場合は、障害物を避けるか取り除いてください。
- 無線LANや他のBluetooth搭載機器、電子レンジを使用している場所など、電磁波を発生する機器がある場合は、その機器から離れてご使用ください。

再生できるディスク

BD	BD-ROM* ¹ BD-R* ² /BD-RE* ²
DVD* ³ * ⁴	DVD-ROM DVD-R/DVD-RW DVD+R/DVD+RW
CD* ³	CD-DA（音楽CD） CD-ROM CD-R/CD-RW スーパーオーディオCD

*¹ BD は新しい規格で日々進化を続けているため、ディスクの種類やバージョンによっては再生できない場合があります。

音源や出力端子、音声設定などにより出力される音質が異なります。

*² 本製品は Ver.2.1 の BD-RE、Ver.1.1、Ver.1.2 および Ver.1.3 の BD-R（LTH を含む）に対応しています。

パソコンで記録した BD-R を本機で再生するには、追記不可能な状態で書き込まれている必要があります。

*³ レコーダーやパソコンで記録した CD または DVD を本機で再生するには、終了情報を記録するファイナライズ処理がされていることが必要です。詳しくは、記録した機器の取扱説明書をご覧ください。

*⁴ AVCREC 方式や HD Rec 規格で記録された DVD は再生できません。

再生できないディスク

- カートリッジ型BD
- BDXL
- DVD-RAM
- HD DVD
- DVDオーディオ
- フォトCD
- CD EXTRAのデータ部分
- スーパー VCD
- DualDiscの音楽専用面
- 本機の映像方式（NTSC）と異なる映像方式（PALなど）で記録されたディスク

ディスクについてのご注意

本機は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠したディスクの再生を前提として設計されています。DualDisc及び著作権保護技術を採用する一部の音楽ディスクはコンパクトディスク（CD）規格に準拠していないことから、本製品では再生できない場合があります。

BD／DVD再生時の操作について

BD／DVD再生時の操作は、ソフトウェアで決められている場合があります。本機はBD／DVDのソフトウェアにしたがって再生するため、いくつかの機能が使えないことがあります。

2層BDや2層DVDの再生について

レイヤー（層）が切り換わるときに映像および音声が一瞬途切れることがあります。

リージョンコードについて（BD-ROM/DVDビデオのみ）

本機は、本体底面のラベルに記載されたものと同じリージョンコードのBD-ROM/DVDビデオのみ再生できます。また、がついているDVDビデオも再生できます。

再生できるファイルの種類

ビデオ

フォーマット	コンテナ	拡張子
MPEG-1 Video ^{*1}	PS	「.mpg」, 「.mpeg」
MPEG-2 Video	PS ^{*2}	「.mpg」, 「.mpeg」
	TS ^{*3}	「.m2ts」, 「.mts」
Xvid	AVI	「.avi」
	MKV	「.mkv」
MPEG-4/ AVC ^{*4}	MKV ^{*1}	「.mkv」
	MP4 ^{*1}	「.mp4」, 「.m4v」
	TS ^{*1}	「.m2ts」, 「.mts」
	Quick Time ^{*5}	「.mov」
VC1 ^{*1}	3gpp/ 3gpp2 ^{*5}	「.3gp」, 「.3g2」, 「.3gpp」, 「.3gp2」
	TS	「.m2ts」, 「.mts」
WMV9 ^{*1}	ASF	「.wmv」, 「.asf」
Motion JPEG ^{*5}	Quick Time	「.mov」
	AVI	「.avi」
AVCHD ^{*1*6}	AVCHD フォーマットフォルダ ^{*7}	

ミュージック

フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG-1 Audio Layer III)	「.mp3」, 「.mka」 ^{*5}
AAC ^{*1}	「.m4a」, 「.aac」 ^{*5} , 「.mka」 ^{*5}
WMA9 Standard ^{*1}	「.wma」
LPCM	「.wav」, 「.mka」 ^{*5}
FLAC ^{*5}	「.flac」, 「.fla」
AC3 ^{*5}	「.ac3」, 「.mka」

フォト

フォーマット	拡張子
JPEG	「.jpeg」, 「.jpg」, 「.jpe」
PNG	「.png」 ^{*8}
GIF	「.gif」 ^{*8}
MPO	「.mpo」 ^{*5*9}

*1 DLNA サーバー上にある場合、再生できないことがあります。

*2 DLNA サーバー上にある DTS フォーマットのファイルは再生できません。

*3 DLNA サーバー上にある場合、ドルビーデジタルフォーマットのみ再生できます。

*4 本機は AVC レベル 4.1 まで対応しています。

*5 DLNA サーバー上にある場合、再生できません。

*6 本機は AVCHD Ver.2.0 規格の映像 (AVCHD 3D/Progressive) を再生できます。

*7 本機はデジタルビデオカメラなどで記録された AVCHD 規格の映像を再生するには、正しくファイナライズ処理がされていることが必要です。

*8 アニメーション PNG またはアニメーション GIF ファイルは再生できません。

*9 3D 以外の MPO ファイルは主画像または最初の画像が表示されます。

ご注意

- ファイルのフォーマットや圧縮状況、録画状態、またはDLNAサーバーの状態によって再生できないことがあります。
- パソコンで記録や編集したファイルは再生できないことがあります。
- ファイルによっては早送り／早戻し再生ができないことがあります。
- デジタル著作権管理 (DRM) などで保護されたファイルや、ロスレスなどでエンコードされたファイルは再生できません。
- 本機はBD/DVD/CDまたはUSB機器内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します：
 - ー ルートフォルダーを含め、9 階層目までのフォルダー
 - ー 1 つの階層にある500 番目までのファイル

- 本機はDLNAサーバー内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します：
 - － 19 階層目までのフォルダー
 - － 1 つの階層にある999番目までのファイル／フォルダー
- 本機は以下のフレームレートに対応しています：
 - － 60 fpsまで（AVCHDフォーマットのみ）
 - － 30 fpsまで（AVCHD以外のフォーマット）
- 本機は40 Mbpsまでのビデオビットレートに対応しています。
- 本機は1920×1080までのビデオ解像度に対応しています。
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマストストレージクラス（MSC）機器（フラッシュメモリーやハードディスクなど）、静止画像キャプチャデバイスクラス（SCD）機器を認識します。
- DATA CD上の高ビットレートのビデオファイルは、なめらかに再生できないことがあります。データDVDまたはデータBD上で再生することををおすすめします。

再生対応フォーマット

以下の音声フォーマットに対応しています。

フォーマット	ファンクション		
	BD/DVD	HDMI1 HDMI2	TV (DIGITAL IN)
LPCM 2ch	○	○	○
LPCM 5.1ch	○	○	—
LPCM 7.1ch	○	—	—
Dolby Digital	○	○	○
Dolby True HD, Dolby Digital Plus	○	—	—
DTS	○	○	○
DTS-ES Discrete 6.1、DTS-ES Matrix 6.1	○ *	○ *	○ *
DTS96/24	○	○ *	○ *
DTS-HD High Resolution Audio	○	—	—
DTS-HD Master Audio	○	—	—
MPEG-2 AAC	○	○	○

○：対応

—：非対応

*：DTSコアとしてデコードされます。

ご注意

- HDMI（入力1）端子またはHDMI（入力2）端子は、スーパーオーディオCDやDVDオーディオなどのコピープロテクションが含まれる音声フォーマットは入力しません。
- LPCM 2chフォーマットのデジタル信号の対応サンプリング周波数は、「HDMI1」または「HDMI2」ファンクションでは96 kHz、「TV」ファンクションでは48 kHzとなります。
- LPCM 5.1chフォーマットのデジタル信号の対応サンプリング周波数は、「HDMI1」または「HDMI2」ファンクションで48 kHzとなります。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
- 記録内容（コンテンツ）については、保証の対象外です。
- 当社にて記録内容（コンテンツ）の修復、復元、複製などは行いません。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックとご相談を

「故障かな?と思ったら」の項を参考にし、故障かどうかを点検してください。

それでも具合が悪いときはソニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：BDV-N1WL
- ディスクの種類：BD-ROM、DVDビデオ、BD-RE、BD-R、DVD-RW、DVD-Rなど
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではブルーレイディスク/DVDプレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。

ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力（非同時駆動、JEITA*）

フロント部：

155 W + 155 W（1 KHz、6 Ω）

センター部：

155 W（1 KHz、6 Ω）

サブウーファー部：

155 W（80 Hz、6 Ω）

* JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

入力（アナログ）

オーディオ入力

感度：1.8 V / 600 mV

入力（デジタル）

TV（オーディオリターンチャンネル／光入力）

対応フォーマット：LPCM 2CH（最大 48 kHz）、Dolby Digital、DTS

HDMI（入力 1）／HDMI（入力 2）

対応フォーマット：LPCM 5.1CH（最大 48 kHz）、LPCM 2CH（最大 96 kHz）、Dolby Digital、DTS

HDMI部

端子：

19 ピン標準コネクタ（Type A）

BD/DVD/スーパーオーディオCD/CD部

信号方式：

NTSC

USB部

ψ(USB) 端子：

A タイプ（USB メモリー、メモリーカードリーダー、デジタルスチルカメラ、およびデジタルビデオカメラ接続用）

LAN部

LAN（100）端子：

100BASE-TX 端子

Bluetooth部

通信方式：

Bluetooth 標準規格 3.0

出力：

Bluetooth 標準規格 Power Class 2

最大通信距離：

見通し距離 約 10 m^{*1}

使用周波数帯域：

2.4 GHz 帯（2.4000 GHz - 2.4835 GHz）

変調方式：

FHSS

対応 Bluetooth プロファイル^{*2}：

A2DP 1.2（Advanced Audio Distribution Profile）

AVRCP 1.3（Audio Video Remote Control Profile）

対応コーデック^{*3}：

SBC^{*4}、AAC

再生周波数範囲（A2DP）：

20 Hz - 20,000 Hz（サンプリング周波数 44.1 kHz、48 kHz）

^{*1} 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。

^{*2} Bluetooth 機器の特性ごとに機能を標準化したもの。

^{*3} 音声の圧縮、変換のフォーマット。

^{*4} Subband Codec の略。

FMチューナー部

回路方式：

PLL デジタル周波数シンセサイザー
クォーツロック方式

受信周波数：

76 MHz - 90 MHz（100 kHz 間隔）

アンテナ：

FM ワイヤアンテナ

アンテナ端子：

75 Ω、不平衡型

スピーカー

フロント (SS-TSB124)

形式：

2 way スピーカーシステム (バスレフ型)

使用スピーカー：

ウーファー：80 mm コーン型
トウィーター：20 mm ドーム型

定格インピーダンス：

6 Ω

最大外形寸法 (幅 / 高さ / 奥行き) (約)：

100 mm $\times$ 435 mm $\times$ 54 mm (スタンド無)
140 mm $\times$ 455 mm $\times$ 140 mm (スタンド有)

質量 (約)：

1.1 kg (スタンド無)
1.2 kg (スタンド有)

センター (SS-CTB123)

形式：

2 way スピーカーシステム (バスレフ型)

使用スピーカー：

ウーファー：60 mm コーン型
トウィーター：20 mm ドーム型

定格インピーダンス：

6 Ω

最大外形寸法 (幅 / 高さ / 奥行き) (約)：

365 mm $\times$ 75 mm $\times$ 75 mm

質量 (約)：

1.3 kg

サラウンド (SS-TSB128)

形式：

2 way スピーカーシステム (バスレフ型)

使用スピーカー：

ウーファー：80 mm コーン型
トウィーター：20 mm ドーム型

定格インピーダンス：

4 Ω

最大外形寸法 (幅 / 高さ / 奥行き) (約)：

100 mm $\times$ 435 mm $\times$ 54 mm (スタンド無)
140 mm $\times$ 455 mm $\times$ 140 mm (スタンド有)

質量 (約)：

1.1 kg (スタンド無)
1.2 kg (スタンド有)

サブウーファー (SS-WSB124)

形式：

サブウーファーシステム (バスレフ型)

使用スピーカー：

180 mm コーン型

定格インピーダンス：

6 Ω

最大外形寸法 (幅 / 高さ / 奥行き) (約)：

280 mm $\times$ 440 mm $\times$ 280 mm

質量 (約)：

8.0 kg

本体

電源：

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力：

電源入時：75 W
スタンバイモード時：0.3W (設定について詳しくは「スタンバイ状態時の消費電力をおさえる」(63 ページ) をご覧ください)

最大外形寸法 (幅 / 高さ / 奥行き) (約)：

480 mm $\times$ 79 mm $\times$ 228 mm (ワイヤレストランシーバー含む)

質量 (約)：

3.1 kg

サラウンドアンプ (TA-SA400WR)

実用最大出力 (非同時駆動、JEITA*)

サラウンド部：

90 W + 90 W (1 KHz、4 Ω)

* JEITA (電子情報技術産業協会) による測定値です。

定格インピーダンス：

4 Ω - 16 Ω

電源：

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力：

電源入時：50 W

スタンバイモード時の消費電力：

0.5 W (スタンバイモード)
0.2 W (電源切)

最大外形寸法（幅 / 高さ / 奥行き）（約）：
206 mm × 60 mm × 238 mm（ワイヤレストランシーバー含む）
質量（約）：
1.3 kg

ワイヤレストランシーバー （EZW-RT20）

（本体およびサラウンドアンプに内蔵）

通信方式：
Wireless sound Specification version
1.0

使用周波数帯域：
2.4000 GHz - 2.4835 GHz

変調方式：
DSSS

電源：
DC 3.3 V、300 mA

最大外形寸法（幅 / 高さ / 奥行き）（約）：
30 mm × 9 mm × 60 mm

質量（約）：
10 g

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。
本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

この製品は「クラス1レーザー製品」です。

環境配慮情報 • オートオフ機能搭載

言語コード一覧表

言語名表記はISO639:1988 (E/F) に準拠

コード	言語	コード	言語	コード	言語	コード	言語
1027	Afar	1183	Irish	1347	Maori	1507	Samoaan
1028	Abkhazian	1186	Scots Gaelic	1349	Macedonian	1508	Shona
1032	Afrikaans	1194	Galician	1350	Malayalam	1509	Somali
1039	Amharic	1196	Guarani	1352	Mongolian	1511	Albanian
1044	Arabic	1203	Gujarati	1353	Moldavian	1512	Serbian
1045	Assamese	1209	Hausa	1356	Marathi	1513	Siswati
1051	Aymara	1217	Hindi	1357	Malay	1514	Sesotho
1052	Azerbaijani	1226	Croatian	1358	Maltese	1515	Sundanese
1053	Bashkir	1229	Hungarian	1363	Burmese	1516	Swedish
1057	Byelorussian	1233	Armenian	1365	Nauru	1517	Swahili
1059	Bulgarian	1235	Interlingua	1369	Nepali	1521	Tamil
1060	Bihari	1239	Interlingue	1376	Dutch	1525	Telugu
1061	Bislama	1245	Inupiak	1379	Norwegian	1527	Tajik
1066	Bengali;	1248	Indonesian	1393	Occitan	1528	Thai
	Bangla	1253	Icelandic	1403	(Afan)Oromo	1529	Tigrinya
1067	Tibetan	1254	Italian	1408	Oriya	1531	Turkmen
1070	Breton	1257	Hebrew	1417	Punjabi	1532	Tagalog
1079	Catalan	1261	Japanese	1428	Polish	1534	Setswana
1093	Corsican	1269	Yiddish	1435	Pashto;	1535	Tonga
1097	Czech	1283	Javanese		Pushto	1538	Turkish
1103	Welsh	1287	Georgian	1436	Portuguese	1539	Tsonga
1105	Danish	1297	Kazakh	1463	Quechua	1540	Tatar
1109	German	1298	Greenlandic	1481	Rhaeto-	1543	Twi
1130	Bhutani	1299	Cambodian		Romance	1557	Ukrainian
1142	Greek	1300	Kannada	1482	Kirundi	1564	Urdu
1144	English	1301	Korean	1483	Romanian	1572	Uzbek
1145	Esperanto	1305	Kashmiri	1489	Russian	1581	Vietnamese
1149	Spanish	1307	Kurdish	1491	Kinyarwanda	1587	Volapük
1150	Estonian	1311	Kirghiz	1495	Sanskrit	1613	Wolof
1151	Basque	1313	Latin	1498	Sindhi	1632	Xhosa
1157	Persian	1326	Lingala	1501	Sangho	1665	Yoruba
1165	Finnish	1327	Laothian	1502	Serbo-	1684	Chinese
1166	Fiji	1332	Lithuanian		Croatian	1697	Zulu
1171	Faroese	1334	Latvian;	1503	Singhalese		
1174	French		Lettish	1505	Slovak		
1181	Frisian	1345	Malagasy	1506	Slovenian	1703	無指定

視聴制限地域コード

地域コード

使用する地域	コード番号	使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044	チリ	2090
イギリス	2184	デンマーク	2115
イタリア	2254	ドイツ	2109
インド	2248	日本	2276
インドネシア	2238	ニュージーランド	2390
オーストラリア	2047	ノルウェー	2379
オーストリア	2046	パキスタン	2427
オランダ	2376	フィリピン	2424
カナダ	2079	フィンランド	2165
韓国	2304	ブラジル	2070
シンガポール	2501	フランス	2174
スイス	2086	ベルギー	2057
スウェーデン	2499	ポルトガル	2436
スペイン	2149	マレーシア	2363
タイ	2528	メキシコ	2362
中国	2092	ロシア	2489

索引

あ行

暗証番号設定 72
一時停止モード 70
イルミネーション設定 74
インターネットコンテンツ 47
インターネットビデオ
Unrated 73
インターネットビデオ視聴
年齢制限 73
インターネットビデオの
更新 37
インターネットビデオ利用
制限 73
インターネットフィルタ
リング設定 73
インターネットブラウザ
64
映像設定 69
オプション 49、65
音声言語 72
音声出力 71
音声設定 71
音量調整 16
オーディオリターン
チャンネル (ARC) 74
オーディオDRC 71

か行

外部入力設定 75
画面モード 69
かんたん初期設定 36
かんたんネットワーク設定 76
言語コード一覧表 91
高速起動モード 74
故障かな?と思ったら 77

さ行

再生
通常の再生 41
再生情報 42
再生できるディスク 84
サウンドエフェクト 71
サッカード 39
サラウンドアンプ 19
システムオーディオ
コントロール 58
視聴年齢制限使用地域 73

視聴年齢制限設定 72
自動音場補正 59、72
自動画面表示 74
字幕言語 72
省エネモード 74
スクリーンセーバー 74
スピーカー
イルミネーション 63
スピーカー設定 60、72
距離 61
リロケーション 61
レベル 61
スライドショー 51
スリープ 62
接続サーバー設定 75
設定初期化 76
ソフトウェアアップデート
通知 74
ソフトウェアライセンス
75

た行

チャイルドロック 63
通信設定 75
ディスク
再生する 41
取り扱い 77
テストトーン 62
テレビタイプ 69
登録済モバイル機器リスト 76
ドルビーデジタル 52

な行

入力レベル抑制設定 —
AUDIO 71
ネットワークアップデート 69
ネットワーク接続診断 75
ネットワーク設定 75
ネットワークの設定確認 75

は行

ブラビアリンク 56
ブルーレイディスク 84
本体 上面/前面 16
本体上面表示窓 18
本体後面 18
本体情報 75
本体設定 74

ら行

リモコン 20
リモート起動 76
リージョンコード 84
レンダラーアクセス制御
設定 76
レンダラー設定 75

わ行

ワイヤレスサウンド接続
設定 74

A-Z

AAC 53
ARC (オーディオリターン
チャンネル) 74
AV SYNC 51
BDインターネット接続 72
BD音声MIX設定 71
BD視聴年齢制限 73
BDハイブリッドディスク
再生層 72
BD-LIVE 41
BD-R 84
BD-RE 84
BD-ROM 24p出力 70
BD/DVD視聴設定 72
BD/DVDメニュー言語 72
Bluetooth 12、43
Bluetooth AUDIO — AAC
72
BONUSVIEW 41
CD 84
Digital Cinema Auto
Calibration 59
DLNA 47、75
DTS 52
DVD 84
DVD視聴年齢制限 73
DVD-ROM 24p出力 70
D.C.A.C 59
D.C.A.C. DX (Digital
Cinema Auto
Calibration DX) 59
FMモード 54
Gracenote設定 75
HDMI 70
HDMI Deep Color出力 70
HDMI映像出力
フォーマット 70
HDMI設定 74
NFC 45
SBM 70

Super Audio CD再生層 73

Super Audio CD再生

チャンネル 73

USB 43

2ヶ国語放送 53

3D 42

3D出力設定 69

3Dテレビ画面サイズ設定

69

4K出力 70

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

<http://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口	修理相談窓口
フリーダイヤル0120-333-020	フリーダイヤル0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話050-3754-9577	携帯電話・PHS・一部のIP電話050-3754-9599
	※取扱説明書・リモコン等の購入相談は こちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389



上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「306」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつながります。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1



* 4 4 5 6 3 3 4 0 3 * (1)